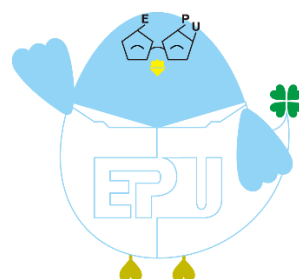
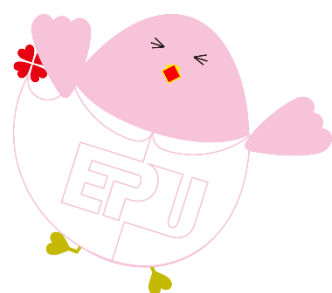


地域交流センター〔ELCC〕

EPU-Local Community Center

活動報告書

令和3年度



公立大学法人 愛媛県立医療技術大学

目次

I 地域交流センターの設置目的及び機能	2
II 地域交流センター事業報告	
人材育成機能	
1. 卒業生と在学生の交流事業「ホームカミングデー」	4
2. 思春期保健スキルアップ研修会	13
3. 母子のための地域包括ケアシステム推進研修会	15
4. えひめ高校生生体機能研究プログラム	18
5. 高校出張講座／ブックトーク&メディカルトーク	21
6. ひろた子どもあそび広場（科学体験教室）	23
7. 2021 幼稚園児対象感染予防対策事業「びょうきとたたかうヒーローのおはなし」	25
III 調査研究	28
IV 教員の社会貢献活動報告	
1. 保健医療機関・行政・企業・関係団体が開催する講座や研修の支援	30
2. 保健医療機関・企業・関係団体との共同研究への参画／行政の事業や保健福祉計画等 への参画・助言	33
3. 保健医療機関・行政・企業・関係団体に勤務する専門職や一般の方の相談対応	34
4. 患者・家族会、NPO 法人、専門職グループなどの支援	37
5. 行政や各種関係団体の理事・委員等の活動	38
6. その他（学術集会ボランティアや保健医療機関・行政・企業・関係団体に委嘱された ボランティア活動等）	51
V 学生の地域交流活動報告	
1. 学生ボランティア登録制度	56
2. 学生サークルおよび学生自治会の地域交流	56
VI 地域への施設開放状況	58
VII 参考資料	
1. 地域交流センターの組織	60
2. 公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営規程	61
3. 公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営委員会規程	63
4. 学生ボランティア登録サイトの開設について	65

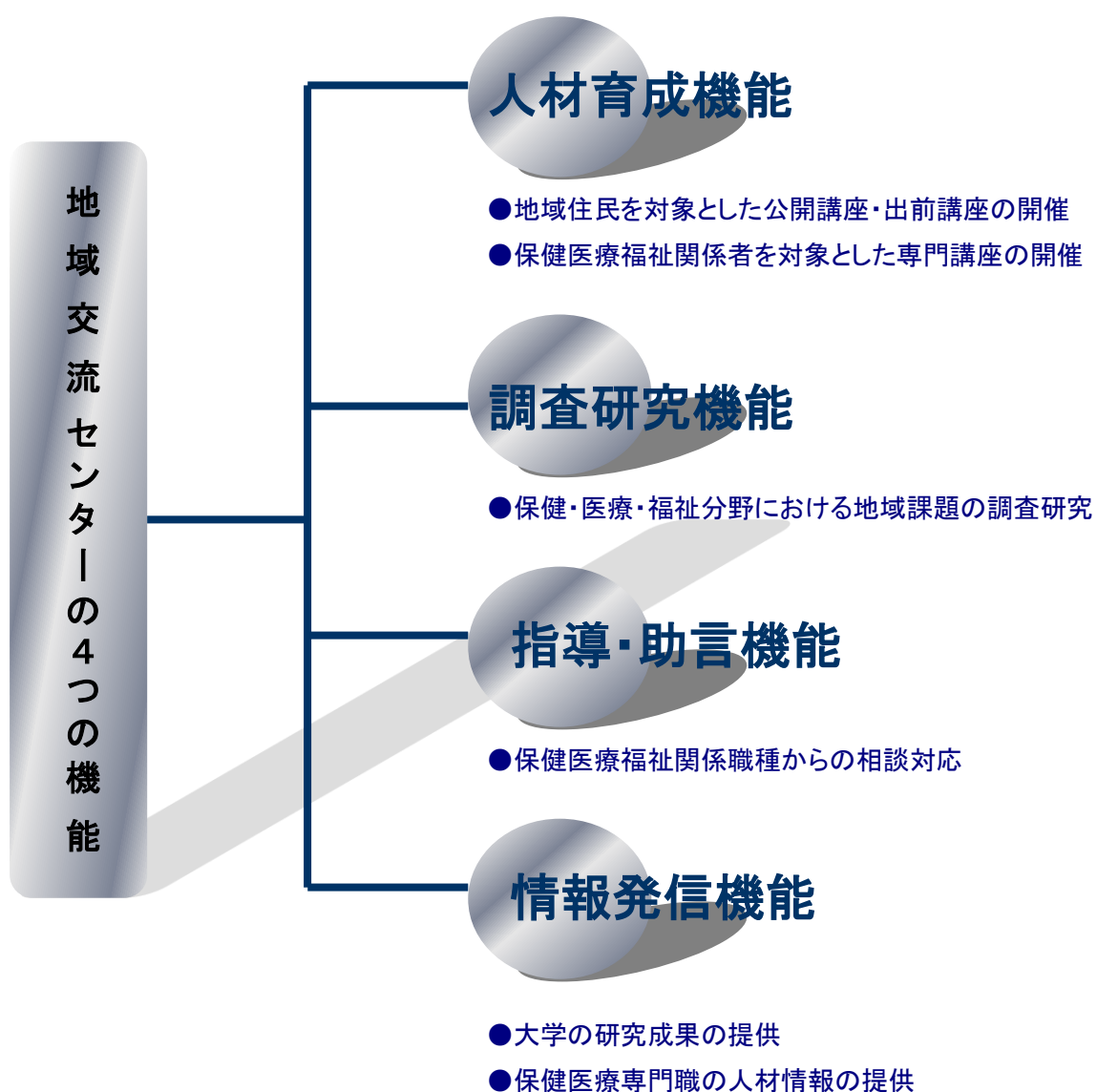
I 地域交流センターの 設置目的及び機能

I 地域交流センターの設置目的及び機能

1. 設置目的

愛媛県立医療技術大学が、地域に開かれた大学を目指し、大学の教育研究機能と市町村をはじめ地域の関係機関・団体等との連携強化を図り、医療の高度化や地域ニーズの多様化に対応できる質の高い保健医療従事者の育成を行うとともに、大学が保有する専門的な知識や技術を地域に還元することにより、県民すべての保健・医療・福祉の増進に寄与することができるよう、県民及び保健・医療・福祉専門職の交流の拠点となる地域交流センターを、大学の開学と同時に、平成 16 年 4 月に設置した。

2. 地域交流センターの 4 つの機能



※国際交流事業等で地域交流センターを紹介するための英文名称を、令和 2 年 11 月 2 日の運営調整会議の承認を得て『EPU—Local Community Center (ELCC)』とした。

Ⅱ 地域交流センター 事業報告

Ⅱ 地域交流センター事業報告

人材育成機能

1. 卒業生と在学生の交流事業 令和3年度第11回「ホームカミングデー」

1) 趣旨

愛媛県立医療技術短期大学・大学の卒業生が、本学に帰ってきて旧交を温める機会を提供するとともに、社会人となった卒業生が技術に関する集談会や活動報告を行うことにより、在学生の職業意識の向上を図る。

2) 実施主体・連携協力機関

コロナ禍のため遠隔と zoom と県内からのみ参加するハイブリッドでの開催とした。茶菓の提供をなくし、ゲストスピーカー謝礼をカードとした。本学同窓会（木蓮会）総会や会食は行わなかった。

3) プロジェクトメンバー

実行委員長：窪田准教授（地域交流センター員）

実行委員：野本センター長、永井講師、宮宇地特任講師、伊藤助教、佐川特任講師
河江専門員、岸田主事

看護師分野：松井准教授、藤原特任講師、高橋助教

保健師分野：田中（美）准教授、奥田講師、入野講師

助産師分野：中越准教授、井上講師、瀧本助教

臨床検査分野：山口教授、山田教授、岡村講師

4) 事業内容

(1) 日時： 令和3年10月25日 10:00～12:30

全体会：10:00～10:30 分科会：10:40～12:30

(2) 場所： 愛媛県立医療技術大学

全体会：117 講義室

分科会：116 講義室 215+216 講義室 258 講義室 355 講義室

(3) 参加者数：全体会；卒業生7名 在校生13名 合計20名 教職員20名

分科会；卒業生37名 在校生73名 合計110名 教職員25名

(4) 実施内容：

全体会：開会の辞、学長挨拶、木蓮会会長挨拶、EPU 大学院の紹介、閉会の辞

分科会：Zoom の技術を駆使し、遠方からゲストスピーカーを招いたり、グループワークを行うなど、分科会ごとに創意工夫が行われた。

看護師分科会報告

日時：令和3年6月19日（土）10：40～12：30

参加者：21名

卒業生6名（ゲストスピーカー1名、来学1名、リモート4名）

在校生15名（4年生1名：リモート参加、3年生9名、2年生4名、1年生1名）

ゲストスピーカーに IQVIA サービスジャパン河辺純怜さん（東京）を迎え「看護師としての歩みを聴く」と題し、教員とのリモートによる対談を行った。河辺さんは、看護師の道に迷っていた大学時代、家族の交通事故と入院をきっかけに、“看護学生なのに何もできない自分”が悔しくて看護師としての道を決心したこと、重症患者が集まる救急医療を志願し、外の世界を知りたいと東京の赤十字病院に就職したこと、救命ICUでCOVID-19感染患者の看護に携わり、今年の3月まで医療の第一線にいたことなどを等身大で話された。対談内容は、対面参加者とリモート参加者の両方にハイブリッド形式で発信され、河辺さんから在校生・卒業生達に「困難があっても何とかなる」と励ましのメッセージが送られた。



対談後は卒業生と在校生をそれぞれ3つのグループに分け（6～8人/G）、卒業生と在校生で織りなす「ぶっちゃけトーク」に突入した。在校生達は授業ですっかり慣れたのか、リモートでの交流にも臆することなく、卒業生に国試の勉強の仕方や就職先の選び方、志望する科の決め方など積極的に質問し、その回答に真剣に聞き入っていた。在校生からは、「先輩の話が聞けて就活や国試のイメージがついた」「実習や就職について貴重な話が聞けて参考になった」との感想があった。

「ぶっちゃけトーク」後は卒業生同士話せる時間を少しだけ設け、お互いの近況報告をしたり励まし合ったりする姿がみられた。卒業生達は、慣れない環境で新人看護師としてがんばる最中、懐かしい学内の雰囲気や教員の姿に和んだ様子であった。

コロナによる影響で卒業生が来学しにくい状況であったが、リモートの活用により在校生にとっても卒業生にとっても有意義な時間になったと思われる。



保健師分科会報告

日時：令和3年6月19日（土）10：40～12：30

会場：215.216 講義室

参加者：30名

卒業生8名（内リモート5名）

在校生16名（内リモート2名）

教員6名（内リモート2名）

内容

講話 10：40～11：30

テーマ：ソーシャルディスタンス時代の地域とのつながり

—新任期保健師の活動紹介—

ゲストスピーカー1：八幡浜市保健センター 山本美里さん（2017年度卒業）

ゲストスピーカー2：山口県萩市健康増進課 藤崎桃子さん（2016年度卒業）

座談会 11：30～12：20

卒業生紹介 12：20～12：30

記念撮影 12：30

保健師分科会では、前半に2名の卒業生の方々をゲストスピーカーにお迎えしてご講話いただいた。

ゲストスピーカーのお2人より、保健師業務の1週間、1か月の流れをご紹介いただくとともに、八幡浜市の山本さんからは、自身の携わる母子保健事業を中心に、印象に残る担当事業として両親学級を紹介していただいた。また、萩市の藤崎さんからは、萩市の魅力を生き活きと紹介していただくとともに、住民組織の一員である保健推進員と協働した活動の紹介を通じて、保健師活動の醍醐味を紹介していただいた。



保健師分科会後半では、5グループに分かれ、Zoom参加者も交えての座談会を行った。在校生から卒業生に対し、学業や就職活動についての質問がなされ、卒業生はそれらに対し丁寧に答える等、各グループとも活発に交流が図られていた。



分科会後半では、5グループに分かれ、Zoom参加者も交えての座談会を行った。在校生から卒業生に対し、学業や就職活動についての質問がなされ、卒業生はそれらに対し丁寧に答える等、各グループとも活発に交流が図られていた。

在校生にとっては今後の自分たちの姿が描け、卒業生にとっては初心に戻れる良い機会となったようであった。

助産師分科会報告

日時:令和3年6月19日 10:40~13:00 会場:258 講義室

参加者:計30名(教員除く)

学部生10名(途中退席1名)・助産学生9名(途中退席1名)・卒業生11名
教員5名(ZOOM参加1名)

内容:ZOOMによる分科会

10:40~11:10 **講演** 田中恵美子さん(emi助産院)「地域で活動する開業助産師」

11:10~11:30 **グループアウトセッション①**

<テーマ>・地域で活動する助産師についての感想や思い

・今後、地域で活動するとしたらどのようなことを行いたいか

11:30~11:45 グループからの発表・講師への質問

11:45~12:05 **グループアウトセッション②**

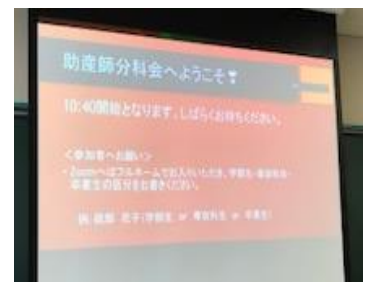
<テーマ>・助産学実習について先輩に尋ねてみたいこと

12:05~12:10 **教員からの一言タイム**

12:10~12:30 **グループアウトセッション③**

<テーマ>・学部生から先輩に尋ねたいこと

・懐かしの同窓会(～13:00)



emi助産院を開業している田中恵美子さんをゲストスピーカーにお迎えして、地域での助産師活動についてご講演いただいた。多くの助産師が医療機関で働く中、助産院を開業した経緯や、開業してからの様々な活動は、現在勤務助産師として働いている後輩や助産学生に、多くの刺激を与えてくれたようである。グループアウトセッションの発表からも助産師の地域活動に興味関心を示す様子が窺えた。

講演の後は、2部構成でテーマを決めてフリートークを行った。昨年度の卒業生においてはZoomによるミニ同窓会を企画した。Zoomによるグループアウトセッションであったため、参加者全員の様子を垣間見ることはできなかったが、あとで参加者に尋ねると「有意義な話できた」や「もう少し時間が欲しかった」といった意見が聞かれた。来年こそは県外者も含め全員が対面にて会うことができるよう願うばかりである。



臨床検査分科会報告

日時・会場：令和3年6月19日（土）10：40～12：30、355 講義室

参加者：40名

卒業生12名（ゲストスピーカー2名、来学6名、リモート4名）

在校生23名（1年4名、2年7名、3年5名、4年6名、リモート参加4年1名）

教員5名（分科会担当2名、センター員1名を含む）

内容

講演 10：40～11：30

講演1：「精神科病院技師の私になぜ大学院に進学したか」

一般財団法人創精会松山記念病院 田野 ゆづき（2018年度卒・本学大学院生）

講演2：「働かないとわからない現場のおはなし」

一般財団法人永頼会松山市民病院 明神 翼（2016年度卒）

フリートーク 11：30～12：30

講演1のゲストスピーカー田野さんは、愛媛県下最大の精神科病院である松山記念病院検査室の業務について説明された後、本学大学院に挑戦した経緯を話された。現在、臨地実習Ⅲで県内中核病院において実習中の4年生は、実習病院の検査業務と異なる精神科病院の業務内容に大いに興味を持ったようだった。

講演2のゲストスピーカー明神さんは、この4月に大学病院から、松山市民病院に異動したばかりでした。大学病院検査科の魅力と苦勞、それ以上に感じていたやりがいについて話された後、それにも関わらず、松山市民病院への異動を何故、決心したのか赤裸々に話していただいた。高度な医療を提供する大学病院に興味を持っている多くの下級生は、仕事と私生活の両立を考え転職された明神さんの話に引き込まれていた。

フリートークは、リモート参加の卒業生を交え、卒業生同士の良い情報交換の場となっただけでなく、在校生と卒業生、先輩と後輩をつなぐ場になり、予定時間を超えて、話が弾んでいた。

コロナ禍ではあるが、ホームカミングデーは、卒業生、在校生を結ぶ良い機会となっているようだ。



5) 評価と課題

(1) ねらい・成果

通常の時期に開催し、昨年度に引き続き Zoom を用いた遠隔と対面のハイブリッド方式で開催し、県外からの参加者はリモート参加とした。また木蓮会との共催を行わなかった。Zoom の取り扱いやハイブリッド方式に教職員、参加者ともに慣れ、それぞれが工夫を凝らした催しとすることができた。

(2) 参加者アンケートの結果

回答	票数	%
① 卒業生	21	26%
② 在校生	59	74%
合計	80	100%

参加のきっかけ

回答	票数	%
① STUメール	46	33%
② ホームページ	8	6%
③ チラシ・ポスター	25	17%
④ 案内文書	9	6%
⑤ 教職員	25	17%
⑥ 同級生	27	19%
⑦ 先輩	2	1%
⑧ 後輩	0	0%
⑨ その他	1	1%
合計	143	100%

参加したもの（すべて）

回答	票数	%
① 全体会（挨拶・大学院説明会）	23	23%
② 看護師分野分科会	15	15%
③ 助産師分野分科会	17	17%
④ 保健師分野分科会	19	19%
⑤ 臨床検査技師分野分科会	28	26%
合計	102	100%

全体会について

回答	票数	%
① とても参考になった	8	35%
② 参考になった	13	57%
③ あまり参考にならなかった	2	8%
④ 参考にならなかった	0	0%
合計	23	100%

全体会の感想

- ・大学院のことが知れて良かったです。
- ・色々な話を聞いて勉強になりました！
- ・大学院について知ることができて良かったです。
- ・大学院の魅力を知ることができて良かったです。

分科会について

回答	票数	%
① とても参考になった	62	78%
② 参考になった	17	21%
③ あまり参考にならなかった	1	1%
④ 参考にならなかった	0	0%
合計	80	100%

分科会の感想

(看護師分野)

- ・生の声が聞けて、就活や国試のイメージがつかえました。早く始めなきゃと焦ってましたが、良い意味で心に余裕を持つことができました。
- ・看護師の先輩のお話が聞けたこと、コロナ禍の現実について知ることができ、とても有意義な時間を過ごすことができた。
- ・先輩とのぶっちゃけトークでは、実習や看護の仕事についてだけでなく、学生生活の中でのアドバイスをいただいたり、おすすめの動画や本を教えてもらって、とても参考になりました！！
- ・実習や就職について不安が大きかったが、先輩方の話を聞いてそんなに気負わなくても何とかなるかもしれないと思った。
- ・実際病院で働かっている先輩のお話を聞いて、とても参考になりました。自分が思っていた不安についても質問できたのでよかったです。
- ・久しぶりに同期や後輩の顔を見れて安心しました。

(保健師分野)

- ・たのしかったです。
- ・息抜きになりました！
- ・卒業生が就職してどのような活動を行っているか知る良い機会になりました。
- ・現役で働かれている保健師の方々に詳しくお話を聞くことができ良かったです。
- ・就職のことだけではなく、学校生活のことも聞いてよかった。
- ・普段聞くことの出来ない貴重な体験談や国試をどのように乗り越えるか、保健師は特に早い段階から対策をしなければとても焦るということを知ることが出来ました。そのため、早い段階から取り組みたいです。
- ・学生さん達が聞きたいことが聞けて良かったと言っていて、少しお役に立てたのかなと嬉しく思います。先生方とも久々に対面でお話できて良かったです。
- ・先輩方の実際を聞き、イメージがより具体的になり、就活のことについてなども丁寧に教えてくださったため、とても参考になった。
- ・お話した先輩の方が就職3か月目の方だったので、国試や就職について最近のお話を聞くことが出来ました。また、保健師といっても様々な役職にいる先輩の方もいらっしゃったので、今まで知らなかった保健師の仕事や最近のコロナで職場環境がどうなったかなども聞くことが出来ました。

(助産師分野)

- ・先輩方の話を聞くことができとても良い刺激を受けることができました。ネット環境が安定せず途中退室してしまったことを申し訳なく思っています。
- ・自分の目指す進路について、不安なことが多かったけれど、実際の体験談を聞いて、不安が軽くなりました。自分が卒業後も後輩たちにアドバイスできるように参加できたらいいなと思いました。
- ・実際に働いてる方の話を聞けたり、先輩の体験談などが聞けたりして、資格や進路ことについて考える良いきっかけとなった。
- ・田中さんのお話を聞いて、助産師として様々な働き方があることを学びました。ワークライフバランスを考えながら自分で働き方を選ばれている姿や、自分のやりたいことを見つけ積極的に行動に移されている姿に感銘を受けました。グループワークでは自分の学部時代、専攻科時代を思い出しながら楽しくお話しさせていただくことができました。久しぶりに同期の顔を見ることもでき、とても嬉しかったです。とても楽しい時間をありがとうございました。
- ・助産師を目指していく中だけでなく、これから先の人生においてずっと覚えておきたいと思うお言葉がいただけて本当に参加してよかったと思った。来年こそは対面でできるのを楽しみにしている。
- ・教員や、同期と久しぶりに話ができてとても良い機会になりました。

(臨床検査分野)

- ・ためになるお話を沢山聞くことが出来ました。在学中の先輩との交流もできてとても良かったです。
- ・なかなか聞けない貴重な実体験などを卒業生から聞いてとても参考になりました。また、直接質問するタイミングがあったので、気になっていたことをたくさん質問することができたので良かったです。
- ・3 回生で何から始めていいかわからなくて焦ってたのですが、少しイメージが出来るようになって、貴重な時間を過ごせたなと感じました。
- ・自分の中で、就職だけでなく院進も視野に入れるきっかけとなり有意義な時間でした。
- ・同級生だけでなく、在學生と話ができてよかったです。楽しませていただきました。
- ・大学院に進学するにも、病院に就職するにも準備がとても大切なのだと気付かされました。また、先輩方と交流できたのはよかったです。コロナの関係で、あまり近付いて聞くことができず、場所によっては聞こえづらいことがあったので、2 部屋に分かれるなどするともう少し聞き取りやすい気がしました。
- ・今まで関わったことない人達とも交流でき、色んな話を聞いて良かった。
- ・踏み入ったお話も聞かせてくれて今後の進路の参考になった。

ホームカミングデーに関する意見や感想、聞きたい講演

- ・病院別に雰囲気を知れたら嬉しかったです。今コロナで実際に見ることができないので、働いてる人の生の声が聞けたら嬉しいと思いました。
- ・在宅看護に関する講演会などがあればぜひ受講したい。
- ・楽しくお話ができて良かったです！また参加したいです。
- ・先輩と話す機会を作っただけで嬉しかったです。
- ・県外からもオンラインを通して、参加出来たのはとても良かったです。マイクの音がオンラインでは、聞き取りにくく少し残念でしたが、後の交流会で後輩の相談に乗ったり同級生と職場の話ができてとても有意義な時間を過ごせました。
- ・県外就職者ともっとお話する機会があれば良かったです。
- ・卒後 1.2 年目の方や在校生がメインだと思いますが、もっと上の年代の人達も参加したくなる会になればいいなと思います。
- ・県外に就職した先輩、他大学の大学院に進学された先輩の話も聞きたい。
- ・zoom 参加ではハウリングや反響などの音声トラブルにより聞き取れないことが多くあったため、内容が十分に伝わりませんでした。今後 zoom による開催があればそれらの改善をよろしく願います。

2. 思春期保健スキルアップ研修会

1) 概要

(1) テーマ

「性教育に役立つ最新情報」 - Zoom によるオンライン研修 -

(2) 目的

思春期保健に携わる関係者が、性教育に役立つ最新情報を得ることで資質の向上を図ることができる。また、思春期の子ども達のコミュニケーション力、性の自己決定力を育み、支援者が生涯を通じた健康づくりの視点に沿って他機関と連携し、組織的かつ継続的に思春期教育を実施するための拠点づくりの場とする。

(3) 対象者

思春期保健に関わる医療従事者、小・中・高等学校教諭、養護教諭等

2) 主体・連携協力機関

主催 愛媛県立医療技術大学 地域交流センター

共催 愛媛県中予保健所 健康増進課

3) 事業内容

(1) 日時 令和3年9月18日(土) 13:30~15:00

(2) 場所 愛媛県立医療技術大学

(3) アクセス数 95 (1アクセスから複数名で参加されているケースあり)

(参加者概算内訳)養護教諭:34 保健師:26 助産師:18 大学教員:5

保護者:2 県教育委員会・教育センター:2 その他:3

(医技大スタッフ)5名

(4) 実施内容

講演 「性教育に役立つ最新情報」

講師 北村邦夫 先生 (一般社団法人日本家族計画協会会長)

(5) 参加者アンケートの結果 (アンケート回収 58名)

①講演について

とても参考になった (57%) 参考になった (41%) ふつう (2%)

②自由記載より抜粋

- ・松山まで2時間以上かかる所に住んでいますので、自宅で研修を受講できてありがたかったです。今後ともよろしくお願いします。
- ・コロナばかりに集中していますが、HPVワクチンについて聞くことができよかったです。
- ・これまで、性教育といっても避妊や性感染症のことなど女性目線の話が多く聞いていました。なので、男の人の悩みについても触れることができよかったです。両方の性の悩みを知り、女子生徒だけでなく男子生徒にも寄り添えるようになりたいと思います。
- ・対面式の講演がやはりいいなと感じましたが、中々行きたくても行けなかったのがオ

ンラインでも参加できて良かったです。感想や質問はチャットでできたら良かったかなと思います。

- ・家にいながら北村先生のお話を聴ける贅沢な時間でした。性についてどう伝えるか、そして、性の健康づくりを育んでいくか。幼少期から、そして、地域ぐるみの取り組みが大切だなあと再認識しました。
- ・性教育に関する最新の情報とともに指導上のポイントが良く理解できた。これらの事を実際の教育の場に展開していくためにどうあるべきか、指導手段や機会の活用などの課題解決が必要である。
- ・日々感じている事、思っている事をたくさん共有したい研修でした。教育現場では現時点ではできない事がたくさんあります。子どもたちのためにも変えていきたいです。

4) 評価と課題

思春期保健スキルアップ研修会は、平成 25 年度から継続開催し、今回で第 9 回目の開催であった。今年度の研修は、昨年度から引き続いてのコロナ禍のため、オンライン研修とした。今回の講師が性教育関連で著名な北村邦夫先生ということもあり、参加申し込みの時点でいろいろな質問が寄せられていた。

北村先生の本来の講演スタイルは対面式ということで、参加者の反応が見えない中、問題形式の投げかけや事前の質問に講演内で回答いただくなど、工夫のされた講演であった。オンライン研修により、県内であっても会場までの移動に 2 時間近くを要する方には、自宅で研修を受けられてよかったという意見がある反面、やはり対面での研修を望む意見もあった。また、講演後の質疑応答に関する講師との事前の打ち合わせでは、オンラインとはいえリアルタイムの研修なので、直接的なやり取りがいろいろと話をしていたが、参加者からはチャットに書き込む方がよかったという意見もあった。

今回のアンケート回収率は 7 割弱であった。チャットにアンケートの URL をアップすることで回答を求めたが、同時アクセスの上限によりアンケートを開けることができず回答しないままの参加者がいた可能性がある。オンライン研修でのアンケート回収率をアップさせる方法を検討する必要がある。また、自由に意見を書き込むために、アンケートの自由記載欄の字数制限を解除してほしいとの意見もあった。

参加者にとってのオンライン研修のメリット、デメリットは様々であり、多くの方により良い環境で参加していただける研修の企画・運営として、今後はハイブリッド対応も視野に入れる必要があると考える。

3. 母子のための地域包括ケアシステム推進研修会

1) 概要

(1) テーマ

母子のための地域包括ケアシステム推進に向けて—愛媛の地域連携を考える—

(2) 目的

愛媛県における母子支援に関する現状を共有し現状課題を認識することにより、参加者それぞれの立場での母子支援および地域包括ケアに取り組む一助とする。また、多職種連携によって全ての母親と子ども、そしてその家族への支援に繋がるようなシステムの構築推進に向けての拠点づくりに資する。

(3) 対象者

保健師、助産師、看護師、母子保健に関わる医療関係者等

2) 主体

愛媛県立医療技術大学 地域交流センター

3) プロジェクトメンバー

愛媛県立医療技術大学 地域交流センター：野本センター長、伊藤美香、岸田直樹
母性・助産の教員：中越利佳、今村朋子、井上明子、瀧本千紗、山下玲子

4) 事業内容

(1) 日時 令和4年1月20日(木) 13:30~15:30

(2) 場所 愛媛県立医療技術大学 南棟1階 117教室 (Zoom配信)

(3) 参加者 Zoomアクセス数 63アクセス (1アクセスにて複数名視聴のケースあり)

・申込者内訳 (欠席連絡のあった者を除く)：合計71名

保健師29名・助産師28名・看護師4名・医師1名・教員3名

ソーシャルワーカー1名・児童福祉士1名・事務職1名・学生3名

・医技大スタッフ：6名

(4) 実施者と実施内容

県内3ヶ所(東予・中予・南予)の母子支援に焦点を当て、それぞれの場で活動している方から異なる視点で話題提供をしていただく。

① 東予

話題提供者

*新居浜市保健センター母子保健係 保健師 黒川由美様

*十全総合病院 助産師 和泉麻実様

② 中予

話題提供者

*松山市子ども総合相談センター 保健師 曾我部香織様

*松山赤十字病院 産科病棟療養支援ナース 黒川由美子様

③ 南予

話題提供者

*八幡浜市子育て世代包括支援センター 保健師 米子京子様

*はらだ助産院 助産師 原田恵美様

④ 質疑応答

(5) 参加者アンケートの結果（アンケート回答者 43 名）

○研修会について

とても役に立つ（40%）、まあ役に立つ（42%）と約8割が役に立つと回答。

○研修会の開催日程・時間について

平日開催の研修であったため開催日程・時間について確認したところ、日程も時間も適切であったと約9割が回答。

○連携について

① 所属している施設で行われている連携方法（複数回答）

所属している施設で行われている全ての連携方法を確認したところ、電話 36 名（26%）、書類 35 名（25%）、対面 29 名（21%）、定期的な会議 15 名（11%）、メール 9 名（6%）、Zoom などのオンライン 9 名（6%）、随時のケース会議 2 名（1%）であった。「定期的な会議」の頻度では、月に 1 回が 4 名と最も多く、あとは週に 1 回から年に 1 回とまちまちであった。

② ①の連携方法の中で最も多く行われている連携方法

最も多く行われている連携方法は、電話 19 名（44%）と最も多く、続いて書類 11 名（26%）、対面 4 名（9%）、メール 3 名（7%）であった。

③ 連携に関して困っていることや気になっていること

- ・依頼しても、家庭訪問の結果など報告をもらえないことがある。病院側に求められることも多く、うまく協働したい。
- ・精神疾患合併妊娠のケースでは困難事例が多いため、障害サービスや精神科など、地域で安心して出産・子育てができる体制づくりができると良い。
- ・地域で連携するもの同士が、互いの役割や組織の体制などを知ることが基本であり、とても重要。しかし、金銭的な面では、要望や意見がたくさんあり、中には、行政の取り組みを否定や非難されるように感じるものもある。互いに分かり合って建設的に話し合いたいが、なかなかうまくいかない。
- ・市町村それぞれで書類があり、煩雑なので同じシステムに統一してもらいたい。
- ・退院直後からの要介入者を保健師へ電話連絡、サマリーを FAX して対応していただいている。保健師のスケジュールもあると思うが、急な依頼にも対応してもらい、助かっている。しかし、時に、依頼していても 1 カ月健診が過ぎた後に、本人と連絡が取れていないと報告されることがある。
- ・コロナ禍で（連携が）縮小されている。
- ・連携を急ぎたくても、保健センターが休日の場合、連絡が遅くなる。
- ・県下での連携が密にとれる手段があればと思う。

④ 連携について思うこと

- ・協働する際、病院側に求められることも多いが、病院の機能も理解していただき、

行政・保健師の個別支援計画なども教えていただきたい。

- ・市町村によって、温度差がある。
- ・産後ケア事業の手続きに時間がかかりすぎる。困っている時にすぐ、ケアか、入院等対応できるようになったらいい。
- ・多職種間でスムーズな連携を行うために、互いが顔見知りになり「顔の見える連携」が大切。
- ・顔の見える関係が大切だが、定期的に会う機会や話す機会をもてない臨床の方がたくさんいる。医療施設と行政で連携をとり、積極的に意見交換できるような場があると良い。
- ・連携における課題はコロナ禍だろうと何年経とうと変わっていないと感じた。
- ・地域で母子を守る体制があるのは、とても良いこと。
- ・よりよいケアを母子に提供するために、連携は必要。コロナ禍で不安を抱えている母子は増えているので、今の時代でも縮小することなく、できる限りの連携をとりたい。
- ・保健センターがどういう考えを持っているかなどがわからない。
- ・産後ケアからでは遅く、妊娠期よりもっと連携をとれたらと思う。
- ・産後ケアの認知度が低いことは問題。無料券や割引券などをつけることで、希望者への情報提供にもなり、すぐに活用できて良い。ケアを受けるのに、保健師との面談といわれるとやっぱりハードルは高い。もっと気軽に使える仕組みを期待したい。

5) 評価と課題

今回の研修は、母子のための地域連携を考えることがテーマであったため、対面で開催できなかったことがとても残念であった。地域連携についての意見を少しでも参加者に共有できるよう、アンケートにおいても所属する施設での連携方法や連携に関する課題や思いなどの回答をしていただき、それらの結果を大学ホームページに掲載した。様々な忌憚のない意見の中には産後ケアに関する意見が多くみられ、産後ケアへの興味関心の高さがうかがえた。また、他（多）職種連携の重要性は認識されてはいるが、現状の改善を求める意見も見られた。今回の研修において地域連携についての情報共有と課題提起を多少なりとも行えたのではないかと考える。今後も、多職種が集える場の提供など、母子のための地域連携推進に向けての一端を担えるような取り組みができればと思う。

4. えひめ高校生生体機能研究プログラム

1) 趣旨または概要

(1) 目的

生きた動物を用いた生体機能に関する実験は、生命化学分野や医療系を志している高校生にとって興味が高いものであるにもかかわらず、現在の高校生の教育課程において、そのことを実施することは不可能に近い状態である。今年度は従来の生体を使用する実験を行う解剖生理コースに加え、細胞を使用する免疫学系の実験を行う免疫コースの2コース制とすることで、講座に多様性を持たせた。発表会はコロナ禍での開催を考慮し、ZoomによるWeb会議としたが、高い学修効果を期待して、両講座の参加者が一堂に会して議論した。

(2) 対象者

愛媛県内高等学校および中等教育学校の生徒

2) 実施主体・連携協力機関

主催 愛媛県立医療技術大学地域交流センター

3) プロジェクトメンバー

解剖生理コース 岡村法宜、濱智子、児玉桐梧（大学院生）

免疫コース 山田武司、荒川裕也、学生ボランティア3名

4) 事業内容

(1) 日時

講義・実験：令和3年10月23・24日（土・日）10：00～16：00

発表会：令和3年11月5日（金）17：00～18：30

(2) 場所 講義：356 講義室

実習：460 医用工学実習室（解剖生理コース）

559 免疫血液実習室（免疫コース）

発表会：Zoomによる遠隔開催

(3) 参加者数 生徒17名 学校教員3名

（参加者内訳）愛媛県内高等学校および中等教育学校 6校（各コース3校）

1校3名まで（各コース定員9名）

実施内容

【解剖生理コース】

講義：① 動物実験に関する教育訓練

② 各実習のねらい

実習：① ラットの解剖（胸腹部・頭部）

② 自律神経系による心拍・血圧の調節（ラット）

③ 運動時の循環系の反応と体表温度（ヒト）

④ 実験動物追悼式

【免疫コース】

- 実習：① リンパ球の分離と染色（フローサイトメトリー解析）
② ABO 血液型判定（スライド法）
③ CRP の検査（ラテックス凝集反応）
④ 抗核抗体の判定（蛍光抗体法）
⑤ 血清アルブミンの測定（ELISA 法）
⑥ 尿中 hCG 検査（イムノクロマトグラフィー法）

発表会：Zoom による遠隔ミーティング
1 校発表 10 分、質疑応答 5 分



（４）参加者の反応

- ① 講座の難易度について選択して下さい（参加 6 校）。
- | | |
|---------|-----|
| 難しかった | 0 校 |
| やや難しかった | 4 校 |
| ふつう | 2 校 |
| やや簡単だった | 0 校 |
| 簡単だった | 0 校 |
- ② このような講座が開催される場合、また受講したいと思いますか。
- | | |
|---------------|-----|
| ぜひ、受講したい | 6 校 |
| 時間が合えば受講したい | 0 校 |
| 特に受講したいとは思わない | 0 校 |
| 受講したくない | 0 校 |
- ③ あなたが勉強する上で、本講座を受講した経験は、役に立ったでしょうか。
- | | |
|-------------|-----|
| 非常に役立った | 6 校 |
| やや役立った | 0 校 |
| ふつう | 0 校 |
| あまり役に立たなかった | 0 校 |
| 役に立たなかった | 0 校 |
- ④ 自由記載

- ・えひめ高校生生体機能研究プログラムに参加し、普段の学校の授業では触れる機会がない精密な実験器具に触れることができ、良い経験になりました。普段経験することのない実験をし、慣れない場面も多かったですが、とても新鮮で楽しかったです。また、分からないことがあった際に先生方、大学生の先輩方による丁寧な説明とサポートにより実験を円滑に進めることができました。実験の待ち時間中にはいろいろな質問をしたり、ディスカッションをしたり、大学生の先輩方と交流することができ、充実した時間を過ごすことができました。
- ・今回は素晴らしい体験をさせて頂きありがとうございました。私達は、日頃から化学の授業で多くの実験をしてきましたが、今回初めて使う実験器具などもあってとても興味深かったです。私達は免疫学コースを体験しましたが、このような実験を毎日のように行って患者さんの病気をいち早く見つけ、人を助けられるような検査技師という仕事にもっと興味を持ちました。私も将来検査技師として働き、多くの患者さんを助けるお手伝いをしたいと思っているので今回の体験は本当にありがたかったです。
- ・発表会のためのパワーポイントを作るのも大変でしたが、解剖学コースを選択していた他の学校の生徒の皆さんにも今回の体験内容を伝えられるように頑張りました。後輩にも今回の体験のすばらしさを伝えたいと思います。
- ・高校では出来ないような貴重な体験をさせていただきとてもよい勉強となりました。また先生のご丁寧な説明に加え、学生の方々の手厚いサポートのおかげでとても有意義に活動することができました。
- ・ラットの解剖を初めて行ってラットの臓器の配置や重さ、長さを知ることが出来ました。またヒトとラットの考察を行うことでより理解を深めることが出来ました。参加した3人ともが医療系の大学、学部に進学しようと考えているため自律神経や臓器についてなど今回のプログラムで教えて頂いたことは大切になるので参加出来て良かったと思っています。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。本当に勉強になりました。
- ・講義の内容だけでなく大学入試についても色々と話す事ができ自分の進路を決めて行く上でとてもいい材料となりました。私はもう今年度で卒業なので参加することはできませんが自分の後輩にこんなにも素晴らしい企画があることを伝えていこうと思いました。

5) 評価と課題

従来の生体機能を探求するために、ヒトによる実験で学習できない内容を動物実験によって学ぶ解剖生理コースだけでなく、動物を使用せずに臨床検査の手法を取り入れ、主に細胞を利用した免疫コースの実施は、本講座に多様性を持たせるだけでなく、社会的なニーズに応える形となり、高校生からの評価も非常に高かった。一方で、コロナ禍で実施された今回の高校生生体機能研究プログラムは、その開催・運営に多大な労力と準備を要した。次年度も、コロナ禍で本講座を継続するために、事前の健康観察を慎重に行い、実習に至る前の講義等に遠隔講義を取り入れるなどの工夫が必要となるだろう。

5. 高校出張講座／ブックトーク&メディカルトーク

1) 概要

子どもの読書活動推進のための「ブックトーク」事業において、高校生達が将来を思い描きながら自ら進んで良書に触れていくことを目的とし、「メディカルトーク」を共催し、本学教員が講話を行った。

2) 実施主体

愛媛県立図書館

3) 組織

ブックトーク：愛媛県立図書館 教育専門員 石川幸代先生

メディカルトーク：愛媛県立医療技術大学保健科学部 看護学科 窪田静

4) 事業内容

(1) 実施日時 令和3年9月17日(金) 13:55～15:45

(2) 実施場所 県立松山南高等学校砥部分校 図書室

(3) 参加者人数 生徒約100名 教職員数名

(4) 実施内容

[ブックトーク] 13:55～14:45 県立図書館：教育専門員 石川幸代先生

テーマ 「色+色=?」

このテーマは、砥部分校が人権や多様性を大切にしていることから選ばれた。

最初に紹介された書籍は、見返りを期待しない愛、兄弟姉妹に対する様々な気持ち、友情についての考え方のいろいろなどについて書かれた「愛すること(絵本)」であった。2冊目は、感情の対処法として、人と比べない、毎日達成できる小さなゴールをつくる、自分を褒める、自分のミスを許すなどを紹介した「自分のこころとうまく付き合う方法」であった。そのあと、「あん」「みんな違ってみんな好き」「101人」が読まれ、ドラマ「コウノドリ」の医療監修をした医師による「NICU命 Dr.とよしまのいのちの授業」で最後を締めくくられた。

[メディカルトーク] 14:55～15:45 本学看護学科 准教授 窪田静

タイトル 「デンマークに学ぶ福祉用具」

デザインを学ぶ生徒達にとって、これからの可能性を拓くきっかけとなることを願い、北欧の文化とポリシーとともに優れたデザインで知られるスカンジナビアの美しい数々の製品に触れた。

次いで、民主主義的思考を育て、知の欲求を満たす場であるデンマーク独自のユニークなフォルケハイスコーレ(国民高等学校)を紹介した。重度障害者を含む若者が寄宿生活を送るエグモントフォルケハイスコーレに留学した、交通事故で脊髄損傷となった日本の作業療法



士の方のビデオを上映し、デザインの持つ深い意味について解説した。

同じくエグモントに留学し、ビデオにも登場したデザイナーさんがデンマークから日本に持ち帰った天然の木の素材を活かしたロフストランド杖においては、生徒たちにじかに触れられるよう準備した。

5) 評価と課題

県立図書館の教育専門員は砥部分校の掲げる人権、多様性を尊重した書籍選択を行い、本学教員は生徒の学ぶデザインに寄せた内容を準備した。

砥部分校校長より以下のようなお礼状をいただいた。

「デザイン科で学ぶ本校生にとって…（中略）ノーマライゼーションやデザインと福祉の関わりについての正しい知識に触れ、デザインの可能性や意義などが伝わって、（中略）、真剣な態度や感想文に関心の高まりがみて取れました。」

6. ひろた子どもあそび広場(科学体験教室)

1) 趣旨または概要

毎年開催されている「サタデースマイル in ひろた」のコロナ禍対応バージョンとして行われた『ひろた子どもあそび広場』の中の企画のひとつとして科学体験教室を開催するものである。対象は、広田地域や山村留学センターの小学生・保育園児で、科学の面白さや身の回りにある科学を実感してもらう企画。夏季(7/11)と冬季(12/5)の2回開催。

2) 実施主体・連携協力機関

砥部町ひろた交流センター

3) プロジェクトメンバー

佐川輝高(愛媛県立医療技術大学)

亀松貴浩(ひろた交流センター)

4) 事業内容

(1) 日時

第1回 令和3年7月11日(日) 9:30~11:30

第2回 令和3年12月5日(日) 9:30~11:30

(2) 場所

砥部町ひろた交流センター

(3) 対象者と参加者数

広田地域や山村留学センターの小学生・保育園児

第1回 9名(3年生1名、4年生3名、5年生4名、6年生1名)

第2回 9名(3年生1名、4年生3名、5年生4名、6年生1名)

山村留学センター職員、砥部町ひろた交流センター職員、砥部町小学校教員

(4) 実施者と実施内容

担当者 佐川 輝高

第1回「新型コロナをやっつけろ」

①「ウイルス本体の工作」

3Dプリンターで自作したSARS-CoV-2のプラモデルを組立ててもらい、ウイルスの構造と感染機構、遺伝子変異と感染効率化を構造的に体験、学習してもらった。次に、インフルエンザウイルスとそれに対するポリクローナル抗体の自作プラモデルを組み立ててもらい、ウイルス感染とワクチンの働く仕組みを学習してもらった。

②「ウイルスが壊される実験」「マスクの感染防止効果の実験」

①で組み立てたSARS-CoV-2プラモデルを用い、ウイルスの構造を学習。なぜ手洗いが有効なのかを考察してもらった。脂質膜の代わりにサラダ油を用いて、手洗い

石鹼の効果、消毒アルコールの効果をそれぞれ単独で実験検証し、手洗いと消毒をどのように組み合わせるのが最も効果的と考えられるか、議論してもらった。農業用ネットを用いて巨大なマスクを再現、この大きさに比例させた唾液飛沫や花粉を表す球とそれに付着するウイルス（シール）を準備し、マスクがなぜウイルス感染や花粉をブロックするのか、なぜその効果に時間的制約があるのかなどを考えられるような実験を行った。

第2回「災害って何？」

①「免震・耐震、振動周期と建物の高さの関係のおもちゃ作り」

色画用紙、プラスチック板や丸棒などを用いて、地震を再現するおもちゃを工作してもらった。これを用いて、免震・耐震、振動周期と建物の高さの関係などを実験、体験してもらった。

②「避難所を楽しく！新聞紙のスリッパや輪投げセットづくり」

立体視眼鏡を工作してもらい、こちらで用意した立体地図を観察、地形、断層などと災害の関係を学習してもらった。なんらかの災害により避難所生活を強いられた場合に少しでも快適な避難所生活をするための方法として、新聞紙によるスリッパづくりペットボトルと新聞紙等を用いて輪投げゲームを作製し、これらを使って色々遊んでみた。

③「液状化や空気砲での突風の実験」

砂、プラスチック水槽、陶器の家模型、遠心管等を用いて地震による液状化を体験してもらった。その後、液状化の起こりやすい場所とそうでない場所の違いについて学習した。風災害の原因となる突風が起こる原理をスモークマシンと段ボール製空気砲で学習。その後、スモーク麻疹と段ボール製空気砲で空気とエネルギーの関係で遊んだ。



5) 評価と課題

昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症の影響で山村留学の子どもが中心となった。本年度の参加者の考察レベルはかなり高く、内容を更に高度化しても良かったかもしれないと考えられた。

7. 2021 幼稚園児対象感染予防対策事業「びょうきとたたかうヒーローのおはなし」

1) 趣旨または概要

新型コロナウイルス感染の世界的流行が2020年春頃から見られるようになり、感染予防対策の重要性が改めて認識された。2021年からは日本でもワクチンの接種が始まり、感染拡大が抑えられたようにも思われるが、海外の状況から判断すると今後も感染が再拡大する可能性が十分考えられ、感染予防対策を継続的に実施する必要がある。特に、ワクチンを接種していない10歳未満の子供に関しては、園や学校などでの集団感染が懸念されるため、出来る限り流行前の早い時期から感染予防を心がけてもらうことが重要である。そこで今回、地元の麻生幼稚園に協力をお願いし、感染予防教育の1つとして「びょうきとたたかうヒーローのおはなし」を企画した。本事業では、多くの子供に感染症と免疫について興味をもってもらい、それが感染予防や健康初期教育につながることを期待する。

2) 実施主体・連携協力機関

砥部町立麻生幼稚園

3) プロジェクトメンバー（企画・動画の作成を含む事業参加者）

臨床検査学科・教授 山田武司（企画・動画・実施）

臨床検査学科・助教 矢野弘子（動画・実施）

臨床検査学科・助教 濱智子（動画）

臨床検査学科・助教 荒川裕也（動画・実施）

臨床検査学科・助教 細川翔（動画）

看護学科・准教授 枝川千鶴子（企画・実施）

看護学科・准教授 徳永なみじ（企画）

医療技術学専攻・2年生 東以杏（企画・実施）

臨床検査学科・4年生 兵頭綾女（実施）

臨床検査学科・4年生 力武和泉（実施）

事務局 岸田直樹（動画）

事務局 徳永祐紀（動画・実施）

事務局 中平沙紀（実施<撮影>）

4) 事業

(1) 日時

令和3年11月4日（火）10：00～11：30

(2) 場所

砥部町立麻生幼稚園

(3) 対象者と参加者数

砥部町立麻生幼稚園・園児 20 名（年長組・年中組）

（4）実施者と実施内容

当日の実施者：山田武司、矢野弘子、枝川千鶴子、荒川裕也、東以杏、兵頭綾女、力武和泉、徳永祐紀、中平沙紀

実施内容：第 1 部～第 3 部で構成（以下の通り）

第 1 部 **かみしばい**
いぎだいせんし めんえきせんたいしゅご
医技大戦士・免疫戦隊守護レンジャー
「あくだーマンとういるすんをやっつけろ！」



第 2 部 **あくだーマンをみてみよう！**
あくだーマンをみつけよう！
どんなかたちがみえるかな？



第 3 部 **みんなでてあらい！
6つのステップ**
きちんとてあらいできるかな？
おうたにあわせててをあらおう！



第 1 部

紙芝居風動画の視聴

（話の内容）「幼稚園のお友達太郎くんが病原体のういるすんに感染します。太郎くんはすぐに病気になりますが、感染した体のなかでは免疫のヒーローたち（免疫戦隊守護レンジャー レッド・ブルー・ピンク）が病原体と戦い、ういるすんや感染細胞のあくだーマンをやっつけてくれます。めでたく、たろうくんは病気から回復します」という内容の動画を園児で視聴する。

第 2 部

顕微鏡観察 *動画も視聴

様々な病原体（細菌や寄生虫）を実際に顕微鏡で観察する。

第 3 部

みんなで手洗い *動画も視聴

きらきら星のメロディーにのせて約 30 秒間の正しい手洗いを、免疫のヒーローたちと一緒にやる。



5) 評価と課題

今回初めての実施であったが、プレスリリースを行ったこともあり実施前から注目度が高く、複数のメディア（南海放送、あいテレビ、愛媛朝日テレビ）から当日取材を受け、当日の夕刻に各局で放送された。実際感染予防にどれほど役立つかの判断は難しいが、園児は楽しく感染症や免疫について学んだ様子が表情から感じられ、感染予防を心がける良いきっかけになったと思われる。問い合わせのあった関係者を通じて動画 DVD の配布を複数の幼稚園に行っているが、今後この活動を、現地での事業実施を含めてどのように展開していくかが次の課題である。

Ⅲ 調査研究

*本年度はコロナウイルス感染拡大の影響を受け中止となった。

IV 教員の社会貢献活動 報告

IV 教員の社会貢献活動報告

1. 保健医療機関、行政、企業、関係団体が開催する講座や研修の支援

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援対象者
野本百合子	県立4病院研修 ラダーⅢトライ 「看護研究の基礎」	県立4病院研修の「看護研究の基礎」に関して、研修内容企画段階から相談にのるとともに、研修会講師も担当し、提出された研究計画書に対する助言・指導を行った。	県立4病院看護師(4年目～10年目)
野本百合子	県立今治病院 院内における 看護研究支援	県立今治病院において、研究に取り組む看護職者に対し、研究の進め方及び抄録・発表原稿のまとめ方などについて助言するとともに、院内研究発表会にも参加し、講評を述べた。	県立今治病院 看護師
田中美延里 奥田美恵 入野了士	愛媛県医療対策課	令和3年度愛媛県地域保健保健師等研修会について企画・運営についての相談を受け参画した。	医療対策課地 域看護係
入野了士	宇和島保健所	令和3年度宇和島保健所ビッグデータ活用研修会について、企画・運営についての相談を受け参画した。	宇和島保健所 健康増進課
入野了士	今治保健所	令和3年度今治保健所地域保健保健師等研修会およびビッグデータ活用研修会について、企画・運営についての相談を受け参画した。	今治保健所企 画課および健 康増進課
入野了士	中予保健所	令和3年度中予保健所ビッグデータ活用研修会について、企画・運営についての相談を受け参画した。	中予保健所健 康増進課
入野了士	愛媛県健康増進課	令和3年度ビッグデータ活用研修会ワークショップセミナーについて、企画・運営についての相談を受け参画した。	愛媛県健康増 進課
入野了士	愛媛県長寿介護課	令和3年度愛媛県生活支援コーディネーター研修ファーストレベルおよびセカンドレベルのオンライン開催において技術支援を行った。	愛媛県長寿介 護課
入野了士	愛媛県看護協会 保健師職能委員会	令和3年度保健師職能研修Ⅱのハイブリッド開催において、技術支援を行った。	愛媛県看護協 会保健師職能 委員会
入野了士	全国保健師長会 愛媛県支部	令和3年度全国保健師長会愛媛県支部研修会のハイブリッド開催において、技術支援を行った。	全国保健師長 会愛媛県支部

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援対象者
豊田ゆかり	愛媛県	中予保健所・愛媛県発達障がい者支援センター あい♥ゆう・愛媛県立医療技術大学の共催で、「乳幼児健診Skills Study」の研修会を6回開催した。役割は研修会企画・助言・報告書作成を担い、その活動内容及び成果を1歳6か月児・3歳児健康診査マニュアルとして作成した。	県内看護師保健師
今村朋子	愛媛助産師会 研修会	《東予地区研修企画と運営》 『災害時の妊産婦・母子支援の実際』の研修の企画、講師の調整やオンライン研修の運営などに携わった。	県内助産師
松井美由紀	愛媛県公営企業管理局 県立病院課	「愛媛県立看護職員合同研修：看護過程の展開(基礎編)」研修について企画運営から携わり、研修講師として研修を行った。次年度も、3年目以上の看護師を対象とした「看護過程の展開(基礎編)」の講師として企画からかかわっていく予定である。	県立病院 看護職員
松井美由紀	ELNEC-J 愛媛	「看護師に対する緩和ケア教育：ELNEC-J」の研修企画についての相談を受け、ELNEC研修の支援を行った。次年度も同じく企画およびファシリテーター等で支援する予定	県内看護師
松井美由紀	愛媛県がん診療連携協議会	令和3年度がん看護実践能力向上研修会の企画およびファシリテーターとして支援。次年度も支援予定	県内看護師
永井さつき	愛媛県看護協会	認定看護管理者教育課程ファーストレベル 自己課題実践報告書の作成支援、発表会の講評などを行う。 また研修全体の評価、また教育内容の点検・助言などをおこなう。 フォローアップ研修を企画した。	県内看護師
永井さつき	愛媛県看護協会	認定看護管理者教育課程セカンドレベル 受講者の選抜、看護管理実践計画書の作成についての講義、作成指導、発表会での講評を行う。	県内看護師
永井さつき	愛媛県長寿介護課	介護支援専門員実務研修 法定研修における受講生の指導および講義・グループワークのファシリテーター、指導者検討会への出席	県内介護支援 専門員
仲田琴美	愛媛県公営企業管理局 県立病院課	「愛媛県立看護職員合同研修：看護過程の展開(基礎編)」研修のファシリテーターとして参加した。次年度も、継続して研修に関わる予定である。	県立病院 看護師

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援対象者
檜枝美紀	香川県みどり整備課	香川県が、みどりとのふれあいを通して、みどりに対する理解を深めるために行っている事業・みどりの学校の講座の一つ「五色台自然学校」を、コロナの影響で実施できない時を除き、月1回のペースで実施した。今後も続けて行う予定である。	一般市民
保健医療機関、行政、企業、関係団体が開催する講座や研修の支援		合計件数	20件

2. 保健医療機関・企業・関係団体との共同研究への参画 行政の事業や保健福祉計画等への参画・助言

氏名	テーマ (事業名・研究課題)	事業内容（関わり方も含めて） 研究方法および結果	メンバー構成 と所属	成果の公表
窪田静	呼吸を楽にする ワンセットケア プロジェクトチ ームによるワン セットケア実践 報告会	川嶋みどり先生のおびかけによ り「熱布バックケア」と「腹臥 位」も合わせた「呼吸を楽にす るワンセットケア」の啓発・普 及を実施しているプロジェクト メンバーによる、covid-19 患者 が入院する病棟でのケアにおい て、腹臥位のポジショニング技 術をアドバイスした。	首都圏の大学教員お よび3つの医療機関 の看護職約20名	地域交流セン ター主催令和 3年度本学看 護実践セミナ ーに2名の大 学教員、2名 の医療機関の 看護師にご登 壇いただい た。
入野了士	愛媛県ビッグデ ータ活用県民健 康づくり事業	介護保険データによる要介護認 知症に関する集計、レセプト分 析、特定健康診査の項目別集計 をし、評価を行った。	愛媛県の健康情報分 析に関わる5名	事業評価報告 書として作成
入野了士 長尾奈美	新居浜市健康プ ログラム事業	令和3年度に実施した左記事業 の評価方法について素案を提示 するとともに、実施結果データ を基に評価を行った。	新居浜市の健康づく りに関わる関係職種 12名	事業評価報告 書として作成
保健医療機関・企業・関係団体との共同研究への参画 行政の事業や保健福祉計画等への参画・助言			合計件数	3件

3. 保健医療機関・行政・企業・関係団体に勤務する専門職や一般の方の相談対応

氏名	相談者	相談内容と対応	相談方法
野本百合子	専門職:看護師(県内病院の看護研究指導者)	院内の倫理審査申請のための書類に関して助言し、現行書式の改善に取り組んだ。	メール
田中美延里	専門職:保健師	地域における保健師の多様な働き方に関する情報収集に協力し、実践例の紹介を行った。	オンライン・メール
窪田静	専門職:看護師(東京都の病院)	自力で移動が可能な covid-19 患者が入院する病棟勤務の看護師への、背面開放座位保持におけるポジショニングに用いる福祉用具の選定。	メール
奥田美恵	専門職:保健師	学会発表に係る抄録作成とポスター発表の内容・方法について相談を受け、助言を行った。	電話・メール
入野了士	専門職:保健師	研究会発表に係る抄録の内容について相談を受け、構成等を含めて助言を行った。	電話・メール
豊田ゆかり	看護師	NICU の看護師の活動に関する研究についての助言	電話及びメール
豊田ゆかり	保健師	医療的ケア児の就学に関する体制整備及び看護師確保に関する相談	電話・来校
枝川千鶴子	保健師	医療的ケア児の在宅生活に向けての論文作成指導	来校
中越利佳	一般	娘さんの妊娠経過についての相談	電話
今村朋子	助産師(県内)	開業助産師からの妊産婦支援方針の判断についての相談	電話・オンライン
今村朋子	助産師(県内)	開業助産師からの助産所経営、管理体制についての相談	来校・メール
今村朋子	助産師(県内)	勤務していない修了生による今後の進路について相談があり、新しい職場への勤務についての助言を行った。	来校
井上明子	助産学専攻科修了生	第 36 回日本助産学会学術集会の助産学生交流会 & 学生ポスター発表で修了生 2 名が発表することとなり、ポスター作成の指導及び口述、発表準備、当日の発表までサポートした。	来校
井上明子	一般	職場内の看護師が助産師学校への進学を検討していることによる進路相談に対応した。	手紙・メール

氏名	相談者	相談内容と対応	相談方法
井上明子	他大学助産教員	分娩期のシラバスの作成や授業の進め方について相談を受け対応した。	電話・メール
藤原紀世子	専門職:看護師(県内の病院)	地域交流センターより、臨床看護研究相談室に申し込みのあった県内の小児看護に携わる看護師の支援の依頼を受けた。研究テーマの絞り込み、研究方法の選定、研究計画書及び倫理審査書の作成、分析、それぞれに支援を行った。	来校・メール・リモート (Zoom)
伊藤美香	一般	娘さんの進学相談	電話
伊藤美香	助産師	助産院開設に向けての相談および情報提供	対面
伊藤美香	助産師	調査研究についての相談および情報提供	対面・メール
瀧本千紗	助産師 (県内施設勤務)	施設内業務マニュアル変更時のエビデンスの問い合わせを受け、情報提供を行った。	面接
瀧本千紗	一般	娘さんの進学相談に対応した。	電話
瀧本千紗	一般	授乳に関する相談に対応した。	電話
山下玲子	一般	分娩経過に関する相談に対応した。	メール
山下玲子	一般	婦人科疾患に関する相談に対応した。	メール
山下玲子	一般	子育て・ワクチンに関する相談に対応した。	メール
松井美由紀	看護師	看護記録及び記録監査についての相談を受け、助言をした。	メール
松井美由紀	看護師	院内研修の技術教育(看護助手教育)についての相談を受け、助言をした	Zoom
松井美由紀	看護師	看護記録及び記録監査についての相談を受け、助言をした。	面接

氏名	相談者	相談内容と対応	相談方法
永井さつき	一般	昨年に引き続き、MCI が疑われる高齢者の近況を聞き、介護保険サービスの見直しについて助言した。	面接
永井さつき	一般	外来リハビリを続けている障がい者と家族が、リハビリ中の事故をめぐって病院とトラブルになっており、家族から相談を受けた。 家族と病院との仲介をし、新たな病院でリハビリができるよう取り計らった。	面接・電話
永井さつき	一般(卒業生)	現在の職場に馴染めず退職を考えているとのことであったため、希望を聞き、希望に沿った病院を紹介した。	メール
永井さつき	保健師	昨年紹介して就職していた事業所での人間関係がうまくいかず退職を考えていたため、管理者に連絡を取り退職しなくて済む対応を求めた。	電話・メール
森万純	専門職:看護師 (県内の病院)	看護系学会での研究発表に関する相談・支援を行った。	電話・対面
森万純	一般	介護認定の必要な家族に適した介護施設の選択について相談を受け、地域包括支援センターや介護支援専門員など、社会資源の情報提供をおこなった。	メール
森万純	専門職:看護師 (県外の病院)	認知症治療の必要な家族に適した病院の選択について相談を受け、認知症看護認定看護師への相談や物忘れ外来のある病院の紹介など、社会資源の情報提供をおこなった。	電話・メール
山岡源治	専門職:臨床検査技師 (愛媛県の病院)	日常検査の中で遭遇した骨髄細胞の鑑別等に関する相談を受け、写真や顕微鏡を観察しながら、指導を行った。	来校・メール
竹内一人	専門職:医師(愛媛県内の病院)	日常診療の中で遭遇した血液疾患の鑑別・診断・治療等に関する相談を受け、指導を行った。	電話・メール
竹内一人	専門職:臨床検査技師 (今治市の病院)	日常診療の中で遭遇した血液疾患の鑑別・診断等に関する相談を受け、指導を行った。	電話・メール
高田智世	専門職:看護師(在宅クリニック)	新型コロナウイルスのPCR検査を自施設で導入する際に、検査環境や検査時の注意点について相談を受け、COVID-19の検査時の手引き等、当該検査について情報提供を行った。	電話・メール
保健医療機関・行政・企業・関係団体に勤務する専門職や一般の方の相談対応			
合計件数			39件

4. 患者・家族会、NPO法人、専門職グループなどの支援

氏名	支援した会の名称と構成メンバー	支援した会や団体の特性 (目的、活動内容、今後の予定など)	教員の役割 支援内容
中西純子	高次脳機能障害者を支える会 (家族会)「あい」	愛媛県内唯一の高次脳機能障害者と家族の会。毎月1回の例会で、当事者とのレクリエーションや家族との情報交換、相談支援をしている。	顧問として相談、助言
野本百合子 岡田ルリ子 徳永なみじ 香川里美 谷本淳子 大野祐子 森敬子	愛媛県看護教員 継続教育研修 (愛媛県下の看護職養成教育機関に所属する教員)	愛媛県の事業として実施された左記研修会の企画立案段階から関与し、研修会Ⅰ・Ⅱの2回にわたり、研修会開催時の運営にあたった。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会の企画立案 ・外部講師との連絡・調整 ・研修会でのファシリテーター・司会 ・会場の調整・提供
越智百枝	愛媛県断酒会	愛媛県断酒会が主催する愛媛県アルコール健康障害対策関係者会議の企画及び運営を行った。	会議の企画・運営の助言及び実施
田中美延里	フリー保健師ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・愛媛県内在住のフリーランスの保健師や在宅保健師のSNSグループ ・互いの活動や自己研鑽に役立つ情報を共有している。 	オープン参加の研修会情報の提供
入野了士	公衆衛生看護活動に関する自主学習会「ざくざく」	愛媛県内の保健所・市町等で活動する保健師たちが、地域における健康づくり活動について研鑽することを目的に自主的に結成した学習会。 コロナ対策の中での学習会検討方法の検討や会員の情報を共有した。	学習会の企画運営の助言
今村朋子 井上明子 山下玲子	村松志保子助産師顕彰会	《安産福運大祭オンライン配信》 毎年全国から助産師が集う大祭をコロナ禍で開催するにあたり、神事の様子を全国の助産師に向けてライブ配信した。	全国助産師
井上明子	NPO法人はぐくみ	発達障害児の親を支援するNPO法人であるが、毎年、観音寺市保健センターで開催しているパパママクラスで妊娠・分娩・出産・育児に関する内容の講演をしている。今年度は、対面で開催できなかったため資料の提供を行った。	クラスの講師
患者・家族会、NPO法人、専門職グループなどの支援		合計件数	7件

5. 行政や各種関係団体の理事・委員等の活動

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
中西純子	日本看護研究学会	看護学の発展、人々の健康と福祉に貢献 学術集会の開催、学会誌の発行、関連団体との連携、委員会活動	理事・評議員・学会誌査読委員 大規模災害支援事業委員会委員長 中国・四国地方会運営委員
中西純子	日本看護研究学会	看護学の発展、人々の健康と福祉に貢献 学術集会の開催、学会誌の発行、関連団体との連携、委員会活動	理事・評議員・学会誌査読委員 大規模災害支援事業委員会委員長 中国・四国地方会副会長
中西純子	日本看護科学学会	看護学の発展、人々の健康と福祉に貢献 学術集会の開催、学会誌の発行、関連団体との連携、委員会活動	代議員
中西純子	日本がん看護学会	がん看護学の発展を目的とし、学術集会開催、学会誌の発行、研究推進活動、等。	学会誌査読委員
中西純子	日本看護学教育学会	看護学教育の発展に寄与することを目的に活動 学術集会の開催、学会誌の発行、関連団体との連携、委員会活動	評議員 学会誌査読委員
中西純子	日本リハビリテーション看護学会	リハビリテーション看護学の発展に寄与することを目的とする。 学術集会の開催、学会誌の発行、等。年に1件程度、論文査読を担当。	学会誌査読委員
中西純子	高知女子大学看護学会	高知女子大学看護学会の発展に貢献。主な事業は、学術集会開催、学会誌等発行、学会員の交流など 左記学会の論文査読を年1件程度担当	学会誌査読委員
中西純子	愛媛県ナースセンター運営委員会	ナースセンターの運営について検討 年2回委員会開催	運営委員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
中西純子	看護職員確保・県内定着推進協議会	愛媛県内の医療・福祉を担う看護職員の確保・定着を推進し、併せて看護の質の向上を図ることを目的に平成28年より設置された。	協議会委員
中西純子	愛媛県国民健康保険運営協議会	市町村国保の安定的な財政運営や効率的な事業の確保等に関し審議する	委員(公益代表)
中西純子	愛媛県医療費適正化計画推進会議	医療費適正化計画の策定、見直し、計画の進捗状況、評価に関する事、医療費の調査及び分析に関する事、等	委員(学識経験者)
中西純子	高知県立大学看護研究倫理審査委員会	左記大学の倫理委員会が適正に機能しているかどうか、外部委員として参加	外部委員
中西純子	四国公衆衛生学会	公衆衛生全般に関する調査研究、知識の普及等の事業の発展を図り、以って公衆衛生の増進に寄与する。	理事
中西純子	大学基準協会大学評価委員会	大学基準協会が実施する大学の適合についての外部評価。本年度は分科会の主査を務めるとともに、全体評価の委員も担う。	評価委員会委員・主査
脇坂浩之	日本耳鼻咽喉科学会愛媛県地方部会	全国の医療安全情報を収集分析し、県下の学会員への医療安全の啓蒙および指導を行う。	医療安全委員
脇坂浩之	愛媛医療解剖教育研究会	県下の医療系学校の解剖学教育教員が集まり、コメディカルの解剖学教育のありかたについて研究および実習を行っている。	監事
鳥居順子	愛媛県土壌汚染調査・対策検討委員会	愛媛県において、土壌汚染対策法に基づく指定区域の指定または解除、汚染除去等の措置等について専門的見地から調査検討するために設置されている。	委員
鳥居順子	愛媛県公害審査委員候補者	愛媛県において、公害紛争処理法に基づき公害をめぐる紛争の簡易迅速な解決を図るために知事があらかじめ委嘱し名簿を作成しておく。	候補者
鳥居順子	愛媛県国民健康保険審査会	愛媛県において、国民健康保険法に基づき保険給付に関する処分他の処分に不服がある者の審査請求を受けて審理する。	委員
鳥居順子	愛媛県開発審査会	都市計画法第78条及び愛媛県開発審査会条例に基づき、開発許可処分等についての審査請求に対する裁決と、市街化調整区域で行われる開発行為で愛媛県が許可する案件の審議を行う。	委員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
鳥居順子	愛媛県ビッグデータ活用県民健康づくり協議会	愛媛県の健診・医療・介護に係る客観的なデータに基づく全県的な疾病予防や健康づくり等を推進し、健康寿命の延伸、医療費の抑制等をはかるために設置されている。	委員
仲渡江美	日本赤ちゃん学会	総合的な学問領域としての「赤ちゃん学 (Baby Science)」の進歩普及を図り、子どもの健全な発達に寄与する。主な事業は、学術集会および公開シンポジウムの開催、機関誌およびその他の刊行物の発行、会員による共同研究、関連団体との協力。	評議員
金澤知典	電気学会 知・技の伝承と複合現実型実応用協同研究委員会	人文、芸術、教育、スポーツ、健康、福祉、産業といった様々な分野の専門家がコラボレーションすることで、人間の知覚、認知、行動、技能を解明し、複合現実感技術を用いたより効果的・効率的なモノ・コトの知・技の伝承と実応用化に向けた共同研究を行うことを目的とする。	委員
野本百合子 岡田ルリ子	愛媛県准看護師試験委員会	保健師助産師看護師法第 25 条の規定による准看護師試験委員として、試験問題や行政処分等にかかわる事項を協議する。	委員
野本百合子 岡田ルリ子 徳永なみじ 香川里美 谷本淳子	日本看護研究学会第 48 回学術集会企画委員会	日本看護研究学会第 48 回学術集会企画委員として、2023 年 8 月の開催に向けた学会の企画に携わっている。	保健師、看護師
野本百合子	日本看護教育学学会第 30 回学術集会企画・実行委員	日本看護教育学学会第 30 回学術集会 (2021 年 8 月 16 日～29 日：オンデマンド配信、8 月 21 日：ライブ配信) の企画・実行委員として、学会集録 (看護教育学研究第 30 巻第 2 号) の編集活動に参加した。	全国の看護職者
野本百合子	公益社団法人愛媛県看護協会	本協会は、愛媛県内の看護職の教育、看護制度や業務改善、医療安全対策など、看護職の資質向上と看護職が活動する場の改善の他、地域住民への看護活動、ナースの再就職支援などを目指して活動している。また、年 1 回、愛媛県内の医療施設・看護師養成教育機関などの研究活動の推進を目的に、愛媛看護研究学会を開催している。	理事(教育担当) 第 41 回愛媛看護研究学会実行委員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
野本百合子	公益社団法人日本看護科学学会	本法人は、看護学の発展を図り、広く知識の交流に努め、もって人々の健康と福祉に貢献することを目的とし、学術集会の開催、学会誌等の発行、研究活動の推進、国内外の関連学術団体との協力と連携、研究論文の表彰、国際的な研究協力の推進、人々の健康と福祉に貢献するための社会活動、その他本会の目的達成に必要な事業等の事業を行っている。	代議員
野本百合子	一般社団法人日本看護学教育学会	本学会は、看護学教育の発展を図り、看護職者による専門的な活動の質向上に寄与することを目的とし、学術集会の開催、学会誌の発行、看護学教育に関する研究および情報交換、研究助成、看護に携わる者の人材育成、国内外の看護学教育に関連する諸組織との連携等の活動を展開している。	評議員 査読委員
野本百合子	千葉看護学会	本学会は、看護学の基盤をより豊かにかつ強固にしていく研究へと推進することを目的とし、現実の諸問題を解決するために実践的研究を一層充実させるとともに、会員相互の学術的研鑽を図り、看護学の発展に寄与する種々の学術活動を行っている。	査読委員
野本百合子	えひめ女性財団	愛媛県における男女共同参画社会づくりを推進することを目的とし、男女共同参画社会づくりに関する意識啓発をはじめ、女性の交流促進とネットワークづくりなど社会活動の促進等を基本方針とした事業や愛媛県男女共同参画センターの管理運営を行っている財団の活動や予算計画に対して評議員としての意見述べるなどの役割を担っている。	評議員
野本百合子	えひめ女性財団	えひめ女性財団が実施している研究助成事業の選考にあたり、審査員として、研究計画及び成果の活用性について、意見を述べた。	研究助成審査員
野本百合子	公益財団法人星川奨学会	本法人は、愛媛県内の大学又は大学院に在学する者（留学生を含む。）で、学業優秀、品行方正でありながら経済的理由により修学が困難な者に対し、奨学援助を行うことによって社会有為の人材を育成することを目的とし、奨学金の給付を中心とする事業を行っている。	評議員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
岡田ルリ子	砥部町総合計画審議会	砥部町の総合計画等審議会の委員として、砥部町が実施している事業に関する検討や実施内容の評価を行い審議する。	委員
徳永なみじ	新人職員研修推進協議会(愛媛県看護協会)	本協議会は、県内に就業するすべての新人看護職員の研修体制を整備し、県民の健康の増進と福祉の向上に資することを目的に設置され、新人看護職員の研修体制及び指導者の育成のための検討や研修会を開催している。	委員
徳永なみじ	一般社団法人日本看護技術学会	本法人は、看護職者らが行っている様々な看護技術の効果とメカニズムを科学的手法を用いて明らかにし、また、経験的知識を発掘してその根拠を探索すること等により、さらなる看護技術の開発に関わる研究活動を通して、看護学の学術の発展に寄与すると共に、看護実践の向上に貢献することを目的としている。その目的を達成するため、評議員として学会活動支援を担う。	評議員
徳永なみじ	一般社団法人日本看護技術学会	本法人は、看護職者らが行っている様々な看護技術の効果とメカニズムについて科学的手法を用いて明らかにし、また、経験的知識を発掘してその根拠を探索すること等により、さらなる看護技術の開発に関わる研究活動を通して、看護学の学術の発展に寄与すると共に、看護実践の向上に貢献することを目的としている。学会誌査読委員は、学会誌の発行と研究の促進を支援する。	学会誌査読委員
徳永なみじ	一般社団法人日本看護技術学会	本法人は、看護職者らが行っている様々な看護技術の効果とメカニズムを科学的手法を用いて明らかにし、また、経験的知識を発掘してその根拠を探索すること等により、さらなる看護技術の開発に関わる研究活動を通して、看護学の学術の発展に寄与すると共に、看護実践の向上に貢献することを目的としている。本会の運営を担う理事。役員・評議員の選出が公正に行われるための役割を担う。	選挙管理委員会委員
野村美千江	日本公衆衛生学会	公衆衛生学の進歩発展と会員相互の研鑽を計り、わが国公衆衛生の向上に資することを目的とする学会。	評議員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
野村美千江	日本看護協会	生活習慣病等重症化予防における活動モデルの創出に関する検討委員会	委員長
野村美千江	愛媛県看護協会	愛媛県内の看護職の質向上および県民の健康な生活の実現に貢献する。	理事(副会長、保健師職能委員長)
野村美千江	松山市社会福祉審議会	松山市における福祉行政施策や事業の実施・評価について協議する。	委員
野村美千江	松山市保健所運営協議会	保健所が管内の地域保健対策の中心的機関として企画調整等の機能を果たし、医療・福祉との連携や包括的な健康づくりを推進できるよう専門家として意見を述べる。	委員
野村美千江	砥部町高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員会	砥部町高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画の策定にあたり、現状の課題分析、目標・具体策に対し意見を述べる。	委員長
野村美千江	砥部町国保運営協議会	国民健康保険の運営に関し、必要な意見の交換や調査、審議、さらに町長への意見具申等を行う。	会長
越智百枝	公益財団法人星川奨学会	本法人は、愛媛県内の大学又は大学院に在学する者(留学生を含む。)で、学業優秀、品行方正でありながら経済的理由により修学が困難な者に対し、奨学援助を行うことによって社会有為の人材を育成することを目的とし、奨学金の給付を中心とする事業を行っている。	奨学生選考委員
越智百枝	愛媛県精神医療審査会	平成26年8月より審査会委員の委嘱を受け、毎月1回措置入院患者及び医療保護入院患者の入院届、定期病状報告の事前審査を行い、審査会に出席し意見を述べた。退院請求のあった入院患者の聞き取りを行い請求内容の妥当性について審査を行った。	委員
越智百枝	松山市自殺対策推進委員会	松山市住民の自殺対策の推進を目的とする。計画の進捗状況を実施状況から査定し、来年度の計画について意見を述べた。	委員長
越智百枝	松山市社会福祉施設整備審査会	平成29年4月より委嘱を受け、申請書類の審査を行った。	委員
越智百枝	日本看護研究学会専任査読員	日本看護研究学会選任査読委員として学会発表抄録の査読を行った。また学会誌への投稿原稿の査読を行った。	査読委員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
越智百枝 中平洋子	日本看護研究学会企画委員	2022年8月に愛媛県松山市で開催予定の日本看護研究学会学術集会の企画運営に参画している。	企画委員・実行委員
越智百枝 中平洋子	高知女子大学看護学会	看護学の進歩発展と会員相互の研鑽・親睦を計り、もって看護の向上に資することを目的とする学会。高知女子学会誌への投稿原稿の学会誌への査読を行った。	査読委員
越智百枝 中平洋子	日本精神保健看護学会	精神保健看護学の発展をはかり、広く知識の交流に努め、もって人々の精神の健康と福祉に貢献することを目的とする学会。学会誌への投稿原稿の査読を行った。	査読委員
田中美延里	日本地域看護学会	地域看護学の学術を、行政・産業・学校・在宅の4領域の観点で捉え、地域看護学の発展に寄与する研究、実践、教育を追究していく学会。	代議員・学会誌査読委員
田中美延里	日本ルーラルナースィング学会	へき地における看護の研究を推進し、日本におけるへき地看護学を確立・発展させることをとおして、へき地の保健医療福祉の向上に寄与することを目的とする学会。	評議員・学会誌査読委員
田中美延里	千葉看護学会	看護学の発展と会員相互の学術的研鑽をはかることを目的とする学会。「実践と研究の往還」を中核理念として看護学の基盤をより豊かにかつ強固にしていく研究を推進する。	学会誌査読委員
田中美延里	愛媛県建築審査会	建築基準法の規定に基づく許可申請に対する同意並びに審査請求の議決等を行う。	委員
田中美延里	松山市健康増進計画推進懇談会	松山市健康増進計画の推進に関して意見交換及び意見聴取を行う。	委員
窪田静	三輪書店	1年間に発行された作業療法ジャーナルを論評し、企画を提案する。	編集同人
窪田静	日本看護技術学会	技術研究成果検討委員会・ポジショニング班員として、エビデンスに基づく看護技術の啓発・普及活動に従事した。	班員
窪田静	一般社団法人日本リハビリテーション工学協会	法人の社員として議決を行う。主な内容は、入会・除名、役員を選任・解任、役員報酬額、各事業年度の事業報告及び決算報告など。	代議員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
中平洋子	愛媛県精神障がい者地域移行支援協議会	受入条件が整えば退院等が可能な精神障がい者の地域移行促進を図ることを目指し、病院・施設等と連携し、地域生活への移行にむけた支援を促進することを目指す協議会。委員として意見を述べる。	委員
中平洋子	愛媛県精神医療審査会	精神障害者の人権に配慮しつつ、その適正な医療と保護を確保するため、専門的かつ独立的な審査を行う機関。審査会の業務のうち、精神科病院の入院患者又はその家族から退院請求や処遇改善請求があった場合、入院の要否や処遇の適否を審査するための面接を行う。	委員
中平洋子	伊予市自殺対策計画策定審議会	誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現をめざし、伊予市の自殺対策計画を策定する審議会。委員として意見を述べる。	副委員長
中平洋子	松前町障害者基本計画策定委員会	松前町第6期障がい福祉計画・第2期障がい児福祉計画の策定。委員として意見を述べる。	委員
奥田美恵	松前町国民健康保険運営協議会	令和3年度松前町国民健康保険運営協議会委員として松前町国民健康保険の適正な運営を図る。	委員
奥田美恵	砥部町健康づくり計画食育推進計画策定委員会	砥部町職員・関係機関・地域住民代表者とともに砥部町健康づくり計画及び食育推進計画を策定する。	委員
奥田美恵	高知女子大学看護学会	看護学の発展への寄与、看護の質の向上を目指した学会。	査読委員
奥田美恵	日本看護学会	看護職の実践に根ざした学術研究の振興を通して看護の質の向上を図り、人々の健康と福祉に貢献することを目的とする学会。	査読委員
入野了士	ビッグデータ活用県民健康づくり事業分析ワーキンググループ	健診・医療・介護のビッグデータに基づく全県的な疾病予防・健康づくり事業等を進展し、健康寿命の延伸、医療費の抑制を図るため、県ビッグデータの分析、検討、資料化を行った。	委員
入野了士	全国保健師教育機関協議会教育課程委員会	看護師教育における高齢者保健技術に関して検討し、学会、全国複数ブロックで意見交換を行った。	委員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
入野了士	新居浜市健康プログラム事業実行委員	新居浜市の就労層の運動習慣の定着を目的とした健康プログラム事業について、事業所の健康づくり活動との連動について検討するとともに、事業の成果を分析して報告書としてまとめた。	委員
入野了士	松山市国民健康保険特定保健指導業務委託選考委員会	松山市の国民健康保険特定保健指導業務を委託するにあたり、松山市の更なる事業充実に適した業者を決定するため、公募型プロポーザルに委員として参加し、学的見地から意見を述べる。	委員
入野了士	松山市地域包括支援センター東・拓南地域ケア会議	地区の特定健診結果や地区住民からの聴き取りから見えてきた地域の健康課題について、地区代表者や関係機関が地域でできる取組みを検討する会で、学識経験者として助言する。	助言者
入野了士	第2次愛媛県歯科口腔保健推進計画の進捗整理のためのワークショップ	計画の目標に対する5年間の取組状況等の全体像を整理し、事業の実施方法や取組の優先順位を改めて見直すことにより、最終評価に向けた今後の取組の方向性を確認する作業にファシリテーターとして参加した。	ファシリテーター
入野了士 坂元勇太	日本看護研究学会実行委員	2022年8月に愛媛県松山市で開催予定の日本看護研究学会学術集会の運営に参画している。	実行委員
坂元勇太 長尾奈美	愛媛県立医療技術短期大学・愛媛県立医療技術大学・大学院同窓会 木蓮会	会員相互の親睦を図り、愛媛県立医療技術大学の発展に寄与することを目的としている。理事として、総会・懇親会や同窓会会報の出版にあたる業務、理事会の開催および運営にあたっている。	理事
豊田ゆかり	愛媛県慢性疾患児童等地域支援協議会	愛媛県の小児慢性特定疾患児等の地域における支援体制及び自立支援事業等の活動状況について把握し、愛媛県下における課題を検討する	委員長
豊田ゆかり	愛媛県介護保険審査会	介護保険認定結果における不服申立てについて審査会を開催し検討する	審査委員
豊田ゆかり	松前町介護給付等審査会	障害者総合支援法に基づく介護給付等審査会において、審査委員を務めた	審査委員
豊田ゆかり	日本看護研究学会	日本看護研究学会第48回学術集会の企画	学術集会企画・実行委員
枝川千鶴子	特定非営利活動法人ラ・ファミリエ	難病をもつ子供たち及びその家族を支援し、もって不特定多数のものの利益の増進に寄与することを目的とする団体	理事

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
枝川千鶴子	日本看護研究学会	日本看護研究学会第48回学術集会の企画	学術集会企画・ 実行委員
中越利佳	日本看護研究学会	日本看護研究学会第48回学術集会の企画	学術集会編集委員 実行委員
中越利佳	日本母性衛生学会	すべての女性の健康を守り、母性を健全に発達させ、母性機能を円滑に遂行させるために、母性衛生に関する研究、知識の普及、関係事業の発展を図り、もって人類の福祉に寄与する。	代議員
今村朋子	一般社団法人愛媛助産師会理事会	監事：愛媛助産師会の運営	監事
今村朋子	一般社団法人愛媛助産師会 広報委員会	広報委員長：会員向けニュースレター（ひめじょ通信・年1回）の編集・発行、メール配信システムの整備を行った。	広報委員長
今村朋子	一般社団法人愛媛助産師会 助産所部会	県内で分娩を取り扱う助産院をつなぎ、県内で初めての助産所部会会議をオンラインで開催し、今後の活動の活発化に向けて支援を行った。	助産所部会委員
井上明子	日本助産師教育協議会	広報社会貢献委員：年に1回会員向けにニュースレターの企画・編集・発行。毎月のマンスリーメールの原案作成、配信準備。	広報社会貢献委員
井上明子	日本看護研究学会	日本看護研究学会第48回学術集会の企画	学術集会編集委員 実行委員
伊藤美香	愛媛看護協会 助産師職能委員会	日本看護協会、愛媛看護協会と連携し、助産師の専門性を強化すべく、定期的な委員会の開催および研修の企画・運営などを行う。	委員
伊藤美香	東予ひめじょ広場 「ふわふわ」	愛媛助産師会の子育て・女性健康支援の一環として西条市丹原町で子育て相談を毎月1回開催	相談員
瀧本千紗	日本看護研究学会	日本看護研究学会第48回学術集会の企画	学術集会編集委員 実行委員
瀧本千紗	一般社団法人愛媛助産師会 広報委員会	広報委員：会員向けニュースレター（ひめじょ通信・年1回）の編集・発行	広報委員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
山下玲子	一般社団法人愛媛助産師会 広報委員会	広報委員：会員向けニュースレター（ひめじょ通信・年1回）の編集・発行	広報委員
松井美由紀	日本がん看護学会	がん看護学の発展を目的とし、学術集会開催、学会誌の発行、研究推進活動、等。	評議員
松井美由紀	日本がん看護学会	日本がん看護学会誌に投稿された論文の査読	学会誌査読委員
松井美由紀	日本看護研究学会第48回学術集会	日本看護研究学会は、看護の発展に寄与し、その学会の企画・運営を勤めることで、看護学発展に貢献する。また事務局長として学術集会長の補佐の役割を担う。	事務局長
松井美由紀	愛媛県がん診療連携協議会 がん看護専門部会	愛媛県内のがん看護の質向上を目的に、プログラム企画・実施・運営および評価	研修企画委員
永井さつき	愛媛県看護協会 看護管理者教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・認定看護管理者教育課程 ・フォローアップ研修の企画・実施・評価に関すること ・その他看護管理者研修全般に関すること 	委員
永井さつき	松前町介護保険事業運営委員会	松前町高齢者福祉計画および介護保険事業計画の推進並びに地域包括支援センターの運営に関して提言する。	委員
永井さつき	牧病院 看護部	看護のレベル向上のために管理者の意識改革を行い、将来的には看護ラダー導入を目指す。そのための管理者のメンタルサポート、教育体制構築の準備を行う。	看護教育及び指導者
田中昭子 永井さつき 光井綾子 宮宇地秀代 高橋博子	日本看護研究学会第48回学術集会	2022年8月に開催予定の学術集会開催の企画・運営等	企画・実行委員
宮宇地秀代	一般社団法人日本看護系大学協議会	災害時の教育継続支援に向けた体制づくりのための広域ブロック会議の出席	災害連携教員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
高橋博子 仲田琴美	愛媛県立医療技術短期大学・愛媛県立医療技術大学・大学院同窓会 木蓮会	会員相互の親睦を図り、愛媛県立医療技術大学の発展に寄与することを目的としている。理事として、総会・懇親会や同窓会会報の出版にあたる業務、理事会の開催および運営にあたっている。	理事
仲田琴美	日本看護研究学会第48回学術集会	2022年8月に松山市で開催予定の日本看護研究学会第48回学術集会の企画運営に参加し、事務局担当として、事務局長の補佐をしている。	企画・実行委員 事務局
仲田琴美	愛媛県看護協会	「看護の日実行委員」にオブザーバーとして参加し、企画を行った。次年度は「看護のこころ普及委員会」として、看護の日のイベントの企画を継続し、開催に携わる。	オブザーバー
森万純	大分県訪問看護推進協議会	訪問看護にかかる大分県の課題や対策について、行政（大分県）と医療関係者が協議し、訪問看護研修プログラムの開発や人材育成に取り組むことを目的とした活動。	委員
森万純	大分県認知症ケア専門士会	<ul style="list-style-type: none"> ・年間活動計画の立案と実施 ・総会、理事会の実施 ・認知症に関する研修会の企画・運営 ・会員情報ネットワークの構築など 	世話人
山岡源治	日本検査血液学会	血液検査学の発展と交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。学術集会・研修会の開催、学会誌の発行、標準化事業の推進、国際化、認定制度の推進を基本として活動している。	評議員
檜枝美紀	公益財団法人星川奨学会	愛媛県内の大学又は大学院に在学する者（留学生を含む）で、学業優秀、品行方正でありながら経済的理由により修学が困難な者に対し、奨学援助を行うことによって社会有為の人材を育成することを目的とし、奨学金の給付を中心とする事業を行う。	奨学生選考委員
竹内一人	日本血液学会中国四国地方会	血液学の発展を図り、広く知識の交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。主な事業は、学術集会・研修会・セミナーの開催、研究協力の推進など。	評議員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
高田智世	愛媛県衛生検査所精度管理専門委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・愛媛県内の衛生検査所における検査精度の質的向上のため精度管理に関する調査研究および保健所長への助言や衛生検査所の実態分析などを行う。 ・衛生検査所精度管理専門委員会に年1回出席した。 	精度管理専門委員会委員
高田智世	特定非営利活動法人生物試料分析科学会	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床検査分野のみならず、広く生物試料の基礎的研究および分析法の開発に関する研究をすることを目的に設立 ・中四国地区で開催する支部学術集会の企画・運営のほか、会員相互の親睦および情報交換の媒介、講演会、出版物の発行などを行う。 	中四国支部役員
高田智世	(一社)愛媛県臨床検査技師会会誌委員会	愛媛県の臨床検査技師の専門性の向上のため、勉強会の開催、会誌の発行、精度管理を実施した。	会誌編集委員
高田智世	愛媛県科学技術振興会議衛生環境評価専門部会	愛媛県試験研究機関が実施する試験研究課題の外部評価を行う。	衛生環境評価専門部会委員
高田智世	松山市衛生検査所精度管理専門委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・松山市内の衛生検査所における検査精度の質的向上のため精度管理に関する調査研究および保健所長への助言や衛生検査所の実態分析などを行う。 ・衛生検査所精度管理専門委員会に年1回出席した。 	精度管理専門委員会委員
高田智世	(一社)日本臨床検査学教育協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の臨床検査技師養成校が加盟する団体 ・臨床検査学の教育および研究に関する情報交換や調査等を行い、臨床検査学教育事業を実施する会員校およびそこで働く教員の資質向上を図り、臨床検査学教育の質向上に努める。 	理事
行政や各種関係団体の理事・委員等の活動		合計件数	118件

6. その他（学術集会ボランティアや保健医療機関・行政・企業・関係団体に委嘱されたボランティア活動等）

氏名	主催者	活動内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
中西純子 野本百合子 岡田ルリ子 徳永なみじ 香川里美 大野祐子 野村美千江 越智百枝 田中美延里 窪田静 中平洋子 奥田美恵 入野了士 窪田志穂 坂元勇太 長尾奈美 豊田ゆかり 枝川千鶴子 中越利佳 今村朋子 瀧本千紗 田中昭子 永井さつき 森万純	松山市保健所の 新型コロナ対応業 務への応援派遣	新型コロナ禍での保健所の体制強化に資するための応援派遣協定（本学、県、松山市間の R2. 12. 25 付け協定）に基づき、本学教員が松山市保健所の新型コロナ対応業務に従事した。 ●第4波の時期 派遣期間：令和3年4月1日（木）～5月10日（月）、毎日1～2名 業務内容：自宅療養者および濃厚接触者の健康観察（電話相談） ●第5波の時期 派遣期間：令和3年8月21日（土）～9月26日（日） 土日祝日に各2名 業務内容：自宅療養者および濃厚接触者の健康観察（電話相談） ●第6波の時期 派遣期間：令和4年1月23日（日）～2月28日（月） 平日・土日祝日の可能日に1～2名 業務内容：自宅療養者および濃厚接触者の健康観察（電話相談）	松山市民
安川正貴 中西純子 草薙康城 脇坂浩之 鳥居順子 野本百合子 岡田ルリ子 谷本淳子 大野祐子	新型コロナウイ ルスワクチン集 団接種支援（1 回目接種）	新型コロナワクチンの早期接種に資するための県との委託契約（R3. 6. 1 付け契約）に基づき、市町が行う第1回目のワクチン集団接種に本学教員が従事した。 ●松山市 派遣期間：令和3年6月5日（日）～7月31日（土）、土・日曜日に各3名 業務内容：ワクチン接種前の問診（医師）及びワクチン接種後の経過観察（看護師）	松山市民 新居浜市民 西条市民 宇和島市民

氏名	主催者	活動内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
越智百枝 中平洋子 入野了士 坂元勇太 長尾奈美 豊田ゆかり 枝川千鶴子 中越利佳 今村朋子 井上明子 藤原紀世子 伊藤美香 瀧本千紗 松井美由紀 永井さつき 光井綾子 宮宇地秀代 高橋博子 仲田琴美 竹内一人 山口文徳		<p>●新居浜市</p> 派遣期間：令和3年6月19日（土）～7月25日（日） 土・日曜日に各3～4名 業務内容：ワクチン接種前の問診（医師）及びワクチン接種後の経過観察（看護師） <p>●西条市</p> 派遣期間：令和3年7月4日（日）～7月17日（日） 日曜日に各1名 業務内容：ワクチン接種前の問診（医師） <p>●宇和島市</p> 派遣期間：令和3年6月19日（土）～7月25日（日） 土・日曜日に各3～4名 業務内容：ワクチン接種前の問診（医師）及びワクチン接種後の経過観察（看護師）	
安川正貴 草薙康城 脇坂浩之 鳥居順子 岡田ルリ子 香川里美 谷本淳子 大野祐子 窪田静 入野了士 坂元勇太 井上明子 藤原紀世子 瀧本千紗 田中昭子	新型コロナウイルスワクチン集団接種支援（2回目接種）	<p>新型コロナワクチンの早期接種に資するための県との委託契約（R3.6.1付け契約）に基づき、市町が行う第2回目のワクチン集団接種に本学教員が従事した。</p> <p>●松山市</p> 派遣期間：令和3年8月7日（土）～11月27日（日）、 土・日曜日に各3名 業務内容：ワクチン接種前の問診（医師）及びワクチン接種後の経過観察（看護師）	松山市民

氏名	主催者	活動内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
永井さつき 光井綾子 高橋博子 森万純 竹内一人 山口文徳			
安川正貴 中西純子 草薙康城 脇坂浩之 鳥居順子 野本百合子 岡田ルリ子 徳永なみじ 大野祐子 越智百枝 窪田静 中平洋子 入野了士 坂元勇太 長尾奈美 豊田ゆかり 中越利佳 瀧本千紗 永井さつき 光井綾子 高橋博子 仲田琴美 森万純 竹内一人 山口文徳	新型コロナウイルスワクチン集団接種支援(3回目接種)	<p>新型コロナワクチンの早期接種に資するための県との委託契約（R3.6.1付け契約）に基づき、市町が行う第3回目のワクチン集団接種に本学教員が従事した。</p> <p>●松山市</p> <p>派遣期間：令和4年2月12日（土）～3月26日（日）、土・日曜日に各3名</p> <p>業務内容：ワクチン接種前の問診（医師）及びワクチン接種後の経過観察（看護師）</p>	松山市民

氏名	主催者	活動内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
安川正貴 草薙康城 野本百合子 岡田ルリ子 徳永なみじ 香川里美 谷本淳子 大野祐子 越智百枝 中平洋子 入野了士 中越利佳 藤原紀世子 山下玲子 松井美由紀 永井さつき 仲田琴美 高橋博子 竹内一人 山口文徳	本学を接種会場とする県民へのアストラゼネカ社製新型コロナウイルスワクチン接種(1・2回目接種)	県が実施するアストラゼネカ社製新型コロナウイルスワクチン集団接種(ファイザー社製及びモデルナ社製のワクチンにアレルギーがある県民や海外でアストラゼネカ社製ワクチン1回目を接種した県民を対象とする接種)について、県からの要請に基づき、本学を接種会場として、本学教員が県民への接種を行った。 ●1回目 令和3年9月13日(月)、18日(土)、21日(火)の3日間、各5名 ●2回目(1回目から8週間後) 令和3年11月8日(月)、13日(土)、16日(火)の3日間、各5名 業務内容: ワクチン接種前の問診(医師)及びワクチンの接種、介助、経過観察(看護師)	愛媛県民
徳永なみじ 大野祐子	愛媛県立医療技術短期大学・愛媛県立医療技術大学・大学院同窓会木蓮会	会員相互の親睦を図り、愛媛県立医療技術大学の発展に寄与することを目的としている。理事として、総会・懇親会や同窓会会報の出版にあたる業務、理事会の開催および運営にあたっている。	卒業生・修了生
その他の活動		合計件数	6件

V 学生の 地域交流活動報告

V 学生の地域交流活動報告

1. 学生ボランティア登録制度

1) 運用実績（令和4年3月現在）

ボランティア登録数は個人登録が36名、団体登録が1団体（医技タット）であった。COVID-19の影響により、今年度の外部団体からのボランティア募集要請、ボランティア活動実績共に0件であった。

2) 開設についての申し合わせ事項

学生ボランティア登録制度の申し合わせ事項である「学生ボランティア登録サイトの開設について」は本活動報告書に掲載している。

2. 学生サークルおよび学生自治会の地域交流

*本年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、大学内への立ち入りが制限された期間が長く、また、学外のイベントも自粛傾向にあったことから活動できなかった。

VI 地域への 施設開放状況

VI 地域への施設開放状況

本学の施設を地域住民に開放し、地域交流の場として活用している。

○ストレッチ教室

活動概要：砥部町保険健康課、健康増進係（保健センター）が主催するストレッチ教室（火曜教室）にあたり、施設開放を行っている。

開放場所：体育館

開放日時：毎週火曜日

4月～3月 10：00～11：00

開催回数：年間 20 回 ※新型コロナウイルス感染症対策のため、開催回数を削減した。

利用者：砥部町住民

利用人数：15 人程度/回、延べ人数 300 人

<活動の様子>



VII 參考資料

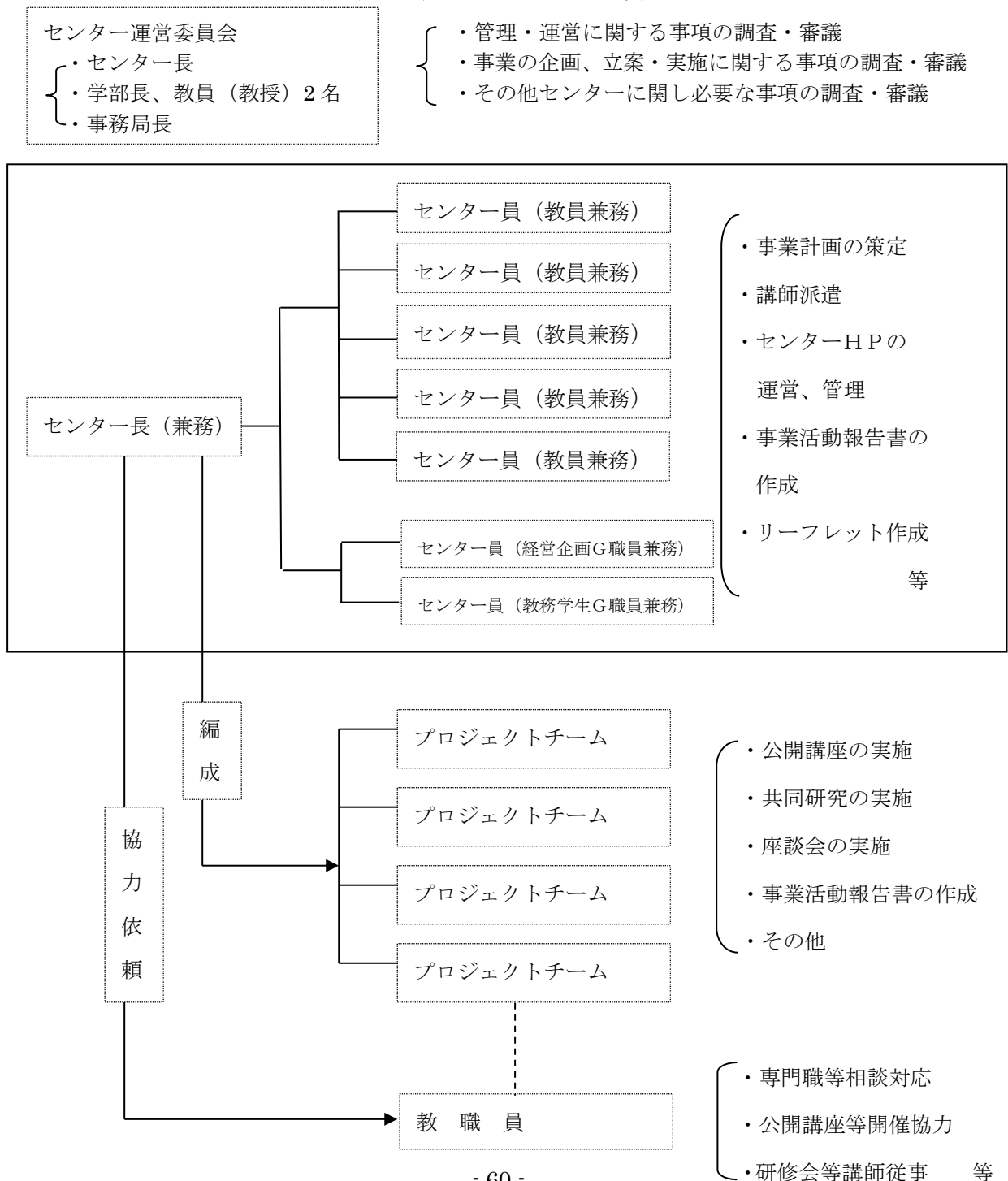
VII 参考資料

地域交流センターの組織（令和4年3月31日現在）

事業の企画、実施のためセンター長の他、センター員7名（教員5名、事務局職員2名が兼務）を配置している。

また、センターに関する事項を審議するため、地域交流センター運営委員会（委員5名）を設置している。

地域交流センター運営図



公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営規程

平成 22 年規程第 11 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学学則（平成 22 年規程第 2 号。以下「学則」という。）第 6 条第 2 項の規定に基づき、公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター（以下「センター」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 センターは、公立大学法人愛媛県立医療技術大学（以下「大学」という。）が地域に開かれた大学として、県民の保健・医療・福祉の増進に寄与するため、大学の教育研究機能と地方自治体をはじめ地域の関係機関・団体等との連携強化を図ることにより、医療の高度化、地域ニーズの多様化に対応し、県民の要望に応じることができる質の高い保健医療従事者の育成、レベルアップに貢献するとともに、県民及び保健・医療・福祉専門職の交流の拠点としての役割を担うことを目的とする。

(業務)

第 3 条 センターの事業は、次の各号に掲げるとおりとする

- (1) 保健・医療・福祉に関する人材育成に関する事業
- (2) 保健・医療・福祉に関する調査研究に関する事業
- (3) 保健・医療・福祉専門職に対する相談支援に関する事業
- (4) 保健・医療・福祉に関する情報発信に関する事業
- (5) その他大学の地域貢献に関する事業

(地域交流センター長)

第 4 条 地域交流センター長（以下「センター長」という。）は、センターに関する業務を統括する。

- 2 センター長は、センター事業に関し、センターの職員以外の大学職員に協力を求めることができる。必要と認められる場合は、学長の承認を得て、大学職員を構成員とするプロジェクトチームを編成することができる。
- 3 センター長の選考に関する事項は別に定める。

(センター員)

第 5 条 第 3 条の事業を企画し、実施するため、センターにセンター員を置く。

- 2 センター員は教員 5 名、事務局職員 2 名が兼務するものとし、教授会の議を経て、学長が任命する。
- 3 センター員の任期は、2 年とする。ただし、再任は妨げない。

4 センター員に欠員が生じた場合は、これを補充し、その任期は前任者の残任期間とする。

(地域交流センター運営委員会)

第6条 センターに関する事項を審議するため、地域交流センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会の組織及び運営に関する事項は別に定める。

(施設の利用)

第7条 センターの施設の利用に関する事項は別に定める。

(委任)

第8条 この規程に定めるもののほか、地域交流センターに関し必要な事項は、地域交流センター長が委員会に諮り定める。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営委員会規程

平成 22 年規程第 12 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営規程（以下「運営規程」という。）第 6 条第 2 項の規定に基づき、地域交流センター運営委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(任務)

第 2 条 委員会は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター（以下「センター」という。）に関する次の各号に掲げる事項を調査審議する。

- (1) 管理及び運営に関する事項
- (2) 事業の企画立案及び実施に関する事項
- (3) その他センターに関し必要な事項

(組織)

第 3 条 委員会は、委員 5 人をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 地域交流センター長
- (2) 本学の学部長及び教授の中から学長が指名する者
- (3) 事務局長

(任期)

第 4 条 委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

2 委員の欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 5 条 委員会に委員長を置き、地域交流センター長の職にある者をもって充てる。

2 委員長は、会議の会務を総理する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

(運営)

第 6 条 会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 会議は、委員の 3 分の 2 以上の出席がなければ、開くことができない。

3 会議の議決は、出席した委員の過半数の同意を必要とし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第 7 条 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、

意見を聞くことができる。

(庶務)

第 8 条 会議の庶務は、地域交流センターにおいて処理する。

(補則)

第 9 条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が委員会に諮り定める。

附 則

この規程は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

学生ボランティア登録サイトの開設について

地域交流センター・学生委員会

2011年6月（改正2014年12月）

1. 開設の目的

ボランティアを必要としている外部の個人や関係団体等からの要請に迅速に対応し、ボランティアに対して意欲のある本学学生及びサークル等に円滑に紹介するために学生ボランティア登録サイトを開設します。本学地域交流センター事業等へのボランティア募集にも活用します。

2. 登録の種類

(1) 個人登録

ボランティアを行う意志のある個人が登録できます。

(2) 団体登録

ボランティア活動を行っているグループが登録できます。グループは、クラブ・サークル・趣味の会等本学の学生で構成されていればどんなグループでもかまいません。

3. 登録の方法

本学ホームページの地域交流センターのページ内に開設した学生ボランティア登録サイトから登録してください。登録は年間を通じて受け付けています。

なお、登録された内容はボランティアの紹介以外に利用されることはありません。

4. 登録、紹介の流れ

